



旭川医科大学

令和7年度概要

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION
ASAHIKAWA MEDICAL UNIVERSITY



医科大学のあるべき姿を目指して

本学は有能で献身的な医師、看護職者を養成し、医学・看護学の発展に貢献するとともに、北海道、特に道北・道東地域の医療を維持し、向上させるという大切な任務を担ってきました。半世紀前の開学当時と比べ、人口減少、少子高齢化をはじめとして社会構造が大きく変化し、国内外の社会情勢も不安定化しておりますが、そのような状況だからこそ原点に回帰し、「教育と研究」の重要性を思い起こす必要があると考えます。本学建設の基本構想(1973年)の中で、「大学においては教育と研究が同等の重さで行われ、両者が一体でなければならない。」と謳われており、「大学における専門教育は所謂『生きた教育』でなければならないが、『生きた教育』は優れた活発な研究者によってのみ達成される。」と述べられています。このような基本構想をもって本学がスタートしたことは私たちの誇りであり、見通しが立ちにくい時代を乗り切るための変わらぬ羅針盤であると信じております。

現在、本学では地域の保健・医療・福祉の向上に大学全体として積極的に取り組んでおります。地域医療への貢献に関しては、「マルチタスク型地域医療医の育成体制の確立」に重点を置いています。マルチタスク型の医師とはそれぞれの専門領域を持ちながら、総合診療、救急医療、在宅医療、僻地・離島医療などの臨床的能力を身に付けた医師を指しています。診療科の横断的な協力のもとにリカレント教育、リスクリング教育を行い、遠隔医療などを駆使し、大学として地域医療医を常にサポートする体制を作ります。それぞれの医師が一定期間地域医療に貢献した後に大学に戻り、最先端の技術を学んだり、基礎研究・臨床研究に打ち込んだりできる環境を作り、自らのキャリアパスを最大限追求できるようにしていきます。保健・福祉に関しては、看護職キャリア支援センターを中心に「医療的ケア児のサポート体制の確立」を目指しています。教育機関、旭川市、各種医療機関などと協力しながら、全国に先駆ける形でモデルケースを作り上げていきます。研究に関しては、学内の基盤的研究、臨床研究などを支援し、研究クラスター形成を推進することにより研究力向上を図るとともに、社会的インパクト増大につながる学内研究を積極的に支援しています。また、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所との連携大学院協定の締結、「アライアンスファイブ」(山口大学、秋田大学、香川大学、鳥取大学、本学の研究連携協定締結)などを通し、学外機関との共同研究も進めております。今後もさらに本学教職員の独自のアイデアを募り、全学を挙げて地域社会のウェルビーイング向上につながる創造的で開かれたプロジェクトを積極的に実行していきます。

これからも、本学で学ぶ学生、教育・研究・医療に携わる教員、大学と病院の業務を支える職員それぞれが自己実現を目指すことで、医科大学としてのレベルを高め、理想を追求していきたいと考えております。そして急激に変化しつつある地域社会、さらに国際社会に対して私たちの活動が貢献できることの手応えを感じ、そしてそれをモチベーションとして、さらに努力を続けてまいります。本学の今後の歩みを期待していただき、引き続き本学を応援していただければ幸いに存じます。



第8代学長

令和4年4月1日～

西川 祐司

INDEX 目次

- 02 教育理念・目標
- 04 大学のミッション
 - 法人の基本的な目標(第4 期中期目標期間)
- 05 ディプロマ・ポリシー[学位授与の方針]
- 07 カリキュラム・ポリシー[教育課程編成・実施の方針]
- 11 アドミッション・ポリシー[入学者受入れ方針]
- 14 トピックス
- 18 研究成果トピックス
- 21 沿革
- 22 組織機構図
- 23 役職員・歴代学長等
- 27 講座及び学科目等
- 28 学生数等・学年暦
- 31 研究領域等
- 34 旭川医科大学病院
- 37 診療実績 [令和6 年度]
- 39 図書館／保健管理センター
- 40 研究推進本部
 - 動物実験施設/実験実習機器センター
 - 放射性同位元素研究施設
- 41 看護職キャリア支援センター
 - 専門医・育成管理センター
- 42 遠隔医療センター／学内共同利用施設
- 43 社会連携
- 44 国際交流
- 45 教育・研究費等
- 46 土地・建物配置図
- 48 位置図

教育理念・目標

大学の理念

豊かな自然環境の中で真摯な教育及び研究活動を行い、医学・看護学の発展に尽くすとともに、地域及び国際社会における保健・医療・福祉の向上に貢献する。

大学の使命

少子・高齢化及び人口減少が急速に進む北海道の地域医療を支えることに重点を置き、献身的かつ有能な医師及び看護職者を育成することで地域社会の保健・医療・福祉を安定的に向上させる。また、独自性の高い研究活動と先進的な医療活動を通して医学・看護学の発展に貢献する。

医学部医学科

教育理念

豊かな人間性と高い倫理観を備え、高度な知識・技能と幅広い学問的視野を持ち、医学の発展及び保健・医療・福祉の向上を通じて社会に貢献する強い意志を有する医療人及び研究者を育成する。

教育目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 1 広く深い教養とコミュニケーション能力を身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性を育む。
- 2 生命を尊重するとともに、倫理的配慮の下に人々の多様性及び人権を擁護し、信頼関係を築ける人材を育てる。
- 3 進歩した専門的知識・技能を修得するとともに、生涯にわたり学修及び研究を継続する強い意志を育む。
- 4 地域住民の医療や福祉の実際を理解し、問題点の解決に実質的に貢献するための能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉の向上を通じて地域及び国際社会の発展に尽そうとする幅広い視野と意欲を涵養する。

医学部看護学科

教育理念

未来を切り開く開拓者精神と生命の尊厳を貴ぶ人間性を備え、責務(Accountability)・権能(Authority)・自律(Autonomy)を基盤に据えながら、先進的な保健・医療・福祉活動を通じて、看護学の発展と共に地域社会に貢献する人材を育成する。

教育目標

旭川医科大学は上記の理念の下にこれらを達成するため、次のような目標を掲げる。

- 1 広い視野をもちながら、北海道の地域特性を理解し、より良い未来に向け積極的に行動する態度を養う。
- 2 幅広い人間理解に基づく倫理観を培い、共感性をもって人々と信頼関係を育むことができる豊かな人間性を養う。
- 3 看護専門職として自己研鑽する力を持ち、チーム活動を通して自律性と看護実践能力を養う。
- 4 地域住民の医療や福祉の実際を理解し、問題点の解決に実質的に貢献するための能力を養う。
- 5 保健・医療・福祉の活動に参画することで、多様な立場の人々と協働し健康課題を解決し、生涯にわたり看護と地域及び国際社会に貢献する意欲を養う。

大学院医学系研究科

基本理念

- 1 医療系大学院として、基礎研究と臨床研究の多様な取組を通し、医学・看護学の総合的な発展を図ります。
- 2 自主・自律の精神を以て深く真理を探究し、真摯な研究活動を通して知の創造を目指します。
- 3 多様で調和のとれた教育体系のもと、豊かな教養と高い人間性、厳しい倫理観を備えた、優れた研究者と高度の専門能力を持つ人材を育成します。
- 4 開かれた大学院として、地域に根ざすと同時に世界との連携にも努め、医療福祉の向上と国際社会の調和に貢献します。

教育目標 博士課程医学専攻

- 1 秀でた獨創性、豊かな人間性、厳しい倫理観を備えた、医学教育者・研究者の育成
- 2 地域社会の医療福祉の充実のために、指導的な役割を担える高度専門職業人の育成
- 3 国際社会で、医学・医療の取組を通し、その普遍的価値を共有できる人材の育成

教育目標 修士課程看護学専攻

- 1 豊かな人間性、優れた研究能力、高い倫理観を備えた、看護学教育者・研究者の育成
- 2 看護専門職者として、優れた問題解決能力を発揮し、指導的役割を担える人材の育成
- 3 看護学の取組を通して、地域社会における保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成



大学のミッション

旭川医科大学の強みや特色を延ばし、さらなる教育・研究・医療の発展、意欲ある医療人の育成など、その社会的役割(ミッション)を果たしていきます。

医学系

- 旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医師・研究者等の養成を積極的に推進する。特に、道内の高校や医療機関と連携し、地域医療に対する強い意欲・使命感を持った学生の積極的な受入れを推進する。
- 北海道の医療支援の実績から発展した遠隔医療の研究、高齢化に対応した脳機能医工学研究の推進等、地域特性に対応した様々な研究を始めとする研究の実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- 橋渡し研究支援拠点として、基礎研究成果の臨床への応用を強力に推進することにより研究成果の実用化を図り、日本発のイノベーション創出を目指す。
- 北海道と連携し、道内の地域医療を担う医師の確保及びキャリア形成を一体的に推進し、広大な北海道の医師偏在の解消に貢献する。
- 地域がん診療連携拠点病院、救命救急センター、地域周産期母子医療センター、地域災害拠点病院等として、地域医療の中核的役割を担う。

看護系

- 旭川医科大学の建学の理念に基づき、地域医療に根ざした医療・福祉の向上に寄与するため、豊かな人間性と思考力、高い倫理感を有する看護職を育成する。特に、臨地実習までの学習成果を確認し客観的臨床能力試験(OSCE)を導入するとともに能動的学修空間を整備するなど、学生の意欲に応えるため、教育内容や学修環境を充実させ、教育効果を高める。
- がん看護専門看護師を始め急激な高齢化に対応した高度専門の人材や指導的な人材を育成するとともに、看護職の復職支援等によって看護師不足に対応し、道北・道東を始めとする地域の医療へ貢献する。
- 遠隔看護の研究等の取組を活かし、広大かつ厳しい気候条件にある道北・道東を始めとする地域の住民の健康保持に貢献する。発展途上国の保健行政・母子保健における医療人材の育成の取組を活かし、国際性豊かな医療人を育成し、国際社会への貢献を目指す。

法人の基本的な目標 (第4期中期目標期間)

旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすため、以下の基本的な目標を定める。

- 1 豊かな人間性と基礎的能力を育む教育を通じ、研究力、実践的能力を持ち、国際的感覚を備えた意欲的な医療人を育成する。
- 2 リサーチマインドを涵養し、独創的で質の高い研究を推進する。
- 3 ステークホルダーとの共創により、地域社会の活性化を図る。
- 4 地域医療の充実と先端的な医療の推進を図り、多職種協働による安全でレベルの高い医療を提供する。
- 5 大学ガバナンス体制の点検・見直しを進め、安定した財務基盤を構築する。

ディプロマ・ポリシー [学位授与の方針]

医学部 医学科 [学士課程]

旭川医科大学医学部医学科では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し学位 [学士 (医学)] を授与します。

「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。急性もしくは慢性の健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的研究計画を立案できる。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

医学部 看護学科 [学士課程]

旭川医科大学医学部看護学科では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められる学生に対し学位 [学士 (看護学)] を授与します。

「倫理観に基づいた看護の社会的使命の遂行」(姿勢・態度)

医療チームの一員として高度な生命倫理に基づいた誠実で良識ある看護実践を行う姿勢・態度を身につけている。社会に対して看護の使命を認識して実践する姿勢・態度を身につけている。

「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

地域から国際社会に至るまで保健・医療・福祉に関する社会的ニーズを踏まえ、看護の実践研究を通して課題を解決する意欲を有する。看護の専門職として、たえず自己研鑽する意欲を有する。

「看護学と医療・保健・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養を身につけ、看護の専門的知識を習得している。

「問題解決能力、発展的思考能力、研究心」(思考・判断)

研究的視点から看護に関する問題を発見し、その解決のための思考力・判断力を身につけている。

「根拠に基づいた基礎的看護実践能力」(技能・表現)

すべてのライフステージ・健康レベルに応じた、根拠に基づく基本的看護実践ができる技能及び表現力を身につけている。

医学系研究科医学専攻〔博士課程〕

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、教育の目標に沿って編成された年次カリキュラムを履修し、基準となる単位数を修得し、次の資質と能力を身につけたと認められ、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対し学位〔博士(医学)〕を授与します。

〔倫理観とプロフェッショナリズム〕(態度)

研究者コース 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、これらを踏まえた基礎研究を遂行できる。また、解決すべき問題を自ら見出し、それらを探求する意欲を持ち、さらに専門家による批評に堪えうる世界レベルの質の高い研究を志向する態度を持っている。

臨床研究者コース 生命の尊厳を尊重し、医の倫理、研究者の倫理を理解し、チーム医療に基づいた高度の専門的医療を実践できる。また、解決すべき問題を自ら見出し、それを探求する意欲を持っている。

〔医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力〕(知識)

研究者コース 基礎研究に関する幅広く深い知識のみならず、自らの基礎研究と医学との関わりについて理解するための基本的医学知識を持っている。また、最先端の研究を遂行するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。

臨床研究者コース 基礎医学の素養に裏打ちされた、臨床医学、社会医学に関する専門的な知識を持っている。また、これらに基づいた医療および研究を実践するために生涯にわたる学習が必要であることを理解し、その方法を身につけている。

〔全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力、研究遂行能力〕(技能)

研究者コース 豊かな人間性に基づいた知的好奇心を持ち、医学・医療の発展に寄与しうる専門的かつ独創的な基礎研究を実践できる。

臨床研究者コース 豊かな人間性を持って患者、患者家族と接し、患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療のための実践的臨床能力を身につけ、臨床研究を実践できる。また、高度の専門性が必要な診断と治療を実践できる。

〔問題解決能力、発展的診療能力、研究心〕(思考・判断)

研究者コース 基礎研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを自らの研究に役立てることができる。また、未解決の問題を、強い探究心を持って論理的、科学的に追求できる。

臨床研究者コース 基礎医学、臨床医学、社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し客観的に評価するとともに、これらを診療に応用することができる。また、未解決の問題を、論理的、科学的に探究できる。

〔地域社会・国際社会へ貢献するための能力〕(意欲・関心)

研究者コース 自らの基礎研究を通じ医学・医療の発展に寄与することで、地域社会や国際社会に貢献できる。

臨床研究者コース 医療に対する社会的ニーズを理解し、臨床研究、専門的医療の実践を通じて地域社会や国際社会に貢献できる。

医学系研究科看護学専攻〔修士課程〕

- 1 看護学とその学際領域における深い学識、高い倫理観と課題解決への意欲を持ち、専門的知識・技術、科学的根拠に基づく問題解決能力を有している。
- 2 豊かな人間性を身につけ、人権を尊重し、ニーズのある当事者の立場に立ち支援することができる専門的な実践能力を身につけている。
- 3 論理的思考力を備え、保健・医療・福祉の現場における看護の現象や実践的技術に関する研究能力を有している。
- 4 国内・国外を問わず、高度な実践、研究を通じて、保健・医療・福祉の向上に貢献する学際的チームと協働・連携できる。
- 5 高い倫理観を背景に、医療チームの一員として看護ケアの質の向上を図る意欲と、根拠に基づく分析的・科学的で高度な専門的看護を実践できる卓越した専門的能力を有している。(高度実践コース)

カリキュラム・ポリシー [教育課程編成・実施の方針]

医学部 医学科 [学士課程]

医学科では、医療分野における多様な価値観等に触れるための基礎教育科目、医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM (Introduction to Clinical Medicine) 科目、より専門的な内容を学び、実践的な力を身につけるための基礎医学科目、臨床医学科目による教育課程を整備し、これらの体系的な履修を促します。また、日進月歩である医学の発展に教育課程として柔軟に対応するために「選択・必修コース」をICM科目の中に配置し、基礎医学・臨床医学の発展に即した教育課程となるよう努めています。

医学科では、医学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

①「倫理観とプロフェッショナリズム」(態度)

生命の尊厳を尊重し、医の倫理を理解し、チーム医療に基づいた医療を実践できるための態度を身につけている。

- 1 医学者としての倫理原則や臨床医として患者さんに対応するための行動科学を理解するために、ICM科目に「医療概論Ⅰ～Ⅳ」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

②「医学と関連する領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養と基礎医学、臨床医学、社会医学の基本的知識を有し、それに基づいた医療を実践するために、生涯にわたる学習の必要性とその方法を説明できる。

- 2 文化、社会、自然等に関する幅広い知識を身につけ、多様な価値観等に触れるために、教養科目を基礎教育科目と位置づけ履修を個人の希望に合わせた選択としています。
- 3 医師のプロフェッショナリズム涵養に結びつく横断的な内容を身につけるためのICM科目を設定し履修を必修としています。
- 4 専門分野の学問の内容と方法を説明でき、自学自習の態度を涵養し、確実に知識を獲得するために、講義・実習科目としての基礎教育科目、基礎医学科目、臨床医学科目のみでなく、ICM科目として「医学チュートリアルⅠ～Ⅲ」を演習科目として配置し、2年次から系統的に履修できるように展開しています。

③「全人的な医療人能力、基本的診療能力、実践的臨床能力」(技能)

豊かな人間性を持って患者、患者家族と接することができる。

患者の意思を尊重した適切な健康増進を図ることができるとともに医療を提供するための基本的診療能力を身につけている。急性もしくは慢性的健康問題について診断と治療の原則を理解し、安全性を配慮した上で計画できる。

- 5 心理的背景を理解した上で、医療コミュニケーションを円滑に行うために、基礎教育科目に「心理・コミュニケーション実習」を1年次に配置しています。
- 6 主要徴候に基づく健康問題の診断と治療の原則を理解するために、1年次に「症候学」を導入し、ICM科目の「医学チュートリアルⅡ」と臨床医学科目を連動させ配置しています。
- 7 臨床実習に必要な基本的診療能力と臨床推論能力を身に付けるために、臨床医学科目の「臨床実習序論」とICM科目のTBL型演習である「医学チュートリアルⅢ」を連動させ配置し、4年次に展開しています。
- 8 臨床実習は、4年次～5年次に配置するベッドサイドラーニングで全ての臨床科目をローテートし、引き続き配置する実習ではクリニカルクラークシップ(診療参加型実習)を採用し3～4週間を一単位として基本診療科を中心に5年次～6年次に必修で展開しています。

④「問題解決能力、発展的診療能力、研究心」(思考・判断)

基礎医学・臨床医学・社会医学領域における研究の意義を理解し、科学的情報を収集し評価するとともに、客観的思考を持って診療に応用することができる。

また、新たな情報を生み出すために倫理原則に基づいた論理的な研究計画を立案できる。

- 9 自らの思考・判断のプロセスや結果を、論述等で論理的に的確に説明できるように、基礎教育科目に「基礎生物学実習」、「医用物理学実習」、「基礎化学実習」、基礎医学科目には「生化学実習」、「形態学実習Ⅰ、Ⅱ」、「生理学実習・演習」、「薬理学実習」、「微生物学実習」、「寄生虫学実習」、「衛生・公衆衛生学実習」、「法医学実習・演習」等の実習科目を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。

- 10 臨床情報に基づく研究を行うために臨床医学科目に「臨床疫学」を配置し、獲得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行う医学研究者としての素養を養うため、4年次に研究室に所属する必修科目としてICM 科目に「医学研究特論」を配置しています。

⑤「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

医療に対する社会的ニーズを踏まえ、医療の実践、研究を通じて地域社会及び国際社会に貢献する必要性とその方法を説明できる。

- 11 地域医療の問題点を知るための「地域医療学」、旭川近郊および北海道での医療ニーズの探索のための「早期体験実習Ⅰ、Ⅱ」、医療に関わる社会的問題を知り解決するための「医療社会学」、「医療社会学実習」をICM 科目に配置しています。また地域における病める者の医療ニーズを知るために臨床医学科目に「健康弱者のための医学」を配置し、1年次から系統的に履修できるように展開しています。
- 12 医学研究を通じて国際社会に貢献する方法を知るために「医学研究特論」を4年次に配置しています。

学習成果の評価の方針

- 1 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。医学研究特論は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨床実習は、各診療科の評価基準(ルーブリック評価、レポートなど)に従って評価します。
- 2 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合的評価は「医学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
- 3 本学の医学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。

医学部 看護学科[学士課程]

看護学科では、高齢社会の到来、医療の高度化など、新たな医療・看護に対する社会の要請に応え、広い教養基盤を支えとする看護実践力を備えた看護専門職を養成するための看護基礎教育を行っています。また、保健師・助産師になるための選択履修科目をそれぞれ設けています。

教育課程は、一般基礎科目・専門基礎科目・専門科目の3群で構成し、さらに専門科目は「看護の基礎」「特性と看護」「看護の発展と探求」の3段階に配置し、看護学を体系的に学習できるよう配慮してあります。また、4年間を通して学ぶ「地域包括ケア論Ⅰ」～「地域包括ケア論Ⅳ」、3年時に「地域包括ケア実習」を配置しました。

当学科では講義・演習・実習の授業形態を有機的に組み合わせ、段階的かつ系統的な教育によって、看護実践ができる人材の養成を目指しています。

看護学科の学位授与の方針を実現するために、上記の方針を以下のとおり具体化して、カリキュラムを編成しています。

①「倫理観に基づいた看護の社会的使命の遂行」(姿勢・態度)

医療チームの一員として高度な生命倫理に基づいた誠実で良識ある看護実践を行う姿勢・態度を身につけている。
社会に対して看護の使命を認識して実践する姿勢・態度を身につけている。

- 1 看護職に必須な倫理を理解するために、第1学年に看護の基盤となる科目「看護学概論」「コミュニケーション論」「人間生涯発達論」を配置しています。第2学年に専門職倫理を深める「看護倫理」を配置しています。
- 2 医療チームの一員としての看護実践に備えるために、第1学年に初年次教育として「早期体験実習Ⅰ」を、第2学年に「早期体験実習Ⅱ」を配置しています。
- 3 人間という存在に対する畏敬の念を培うために、第1学年に「生体観察実習」を配置しています。
- 4 社会的存在としての看護職者の姿勢・態度を身につけるために、第1学年に「初年次セミナー」を、第1学年から第4学年を通じて段階的に臨地実習を、また卒業前に「総合実習」を配置しています。

②「地域社会・国際社会へ貢献するための能力」(意欲・関心)

地域から国際社会に至るまで保健・医療・福祉に関して多様な人々と協働し、社会的ニーズを踏まえ、看護の実践・研究を通して課題を主体的に解決する意欲を有する。

看護の専門職として、たえず自己研鑽する意欲を有する。

- 5 学士課程での学び方を学ぶために第1学年に初年次教育として「初年次セミナー」を配置し学習意欲を高めます。
- 6 地域医療に興味と関心を持ち北海道の地域特性に応じた医療ニーズを探索するために第1学年では近隣の地域で学ぶ「早期体験実習Ⅰ」、第2学年では多様な地域に滞在しながら学ぶ「早期体験実習Ⅱ」を配置しています。
- 7 人々が住み慣れた地域で生活できるよう支え支援していく方法を第1学年から第4学年まで段階を踏みながら自ら探索していく「地域包括ケア論Ⅰ」～「地域包括ケア論Ⅳ」を4年一貫教育プログラムとして配置しています。
- 8 地域社会および国際社会に貢献できるよう、第1学年に「地域看護学」、第3学年に「英語文献講読」、第4学年に「国際保健・災害看護論」を配置しています。

③「看護学と医療・保健・福祉の看護関連領域に関する十分な知識と生涯学習能力」(知識)

幅広い教養を身につけ、看護の専門的知識を修得している。

- 9 文化・社会・自然に関する幅広い知識を身につけ多様な価値観に触れるために、教養科目を一般基礎科目と位置づけ、学習スキルやキャリア形成を育むために「初年次セミナー」「情報リテラシー」を必修科目に配置しています。選択科目として、対象把握の有機的な理解のために「手話入門」をはじめ、個人の希望に合わせて履修できる様々な科目を配置しています。
- 10 生活体である人間を理解するための専門基礎科目を設定し、その履修を必修としています。第1学年には、人間の心と体を理解する科目と第2学年には疾病や治療、薬理に関する科目を配置しています。第3学年には集団や地域の保健・医療・福祉に関する理解を深めるため「保健医療福祉システム論」を配置しています。
- 11 看護の基礎的知識を学び、人間の各発達過程の特性と看護に関する科目として、第2学年から第3学年に専門科目「成人看護学Ⅰ・Ⅱ」「高齢者看護学Ⅰ・Ⅱ」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」を設定し、臨床全般の看護の知識を学べるように配置しています。また、第3学年、第4学年には、看護の発展と探求の科目に、必修科目として「在宅看護論」「がん看護学Ⅰ」「チーム医療・リハビリテーション看護論」、選択科目として「認知症ケア論」「クリティカルケア論」「がん看護学Ⅱ」「がんサバイバーシップ」「がん看護学Ⅲエンドオブライフケア」などを配置しています。さらに、4年間を通じて保健師課程、助産師課程の必修科目を配置し、看護学と並行して公衆衛生看護学、助産学の基礎・専門知識を学ぶために選択履修ができるようにしています。

④「問題解決能力、発展的思考能力、研究心」(思考・判断)

看護に関する疑問や問題を、研究的視点から自ら解決に取り組むための思考力・判断力を身につけている。

- 12 論理的に思考・判断することができるために、第1学年では「学ぶこと」を体験的に学習する「初年次セミナー」、第2学年では問題解決思考による看護過程を展開する「基礎看護技術学Ⅳ」、対象の健康をアセスメントする「看護フィジカルアセスメント」、データの処理を扱う「保健統計」を配置しています。第3学年には個人のみならず、集団や地域の健康に関する「疫学」を配置しています。
- 13 獲得したさまざまな知識を用いて看護の現実問題の解決に取り組む基礎を身につけるために、第1学年に「初年次セミナー」を、第3学年に「看護研究」、第4学年に「卒業研究」を配置しています。

⑤「根拠に基づいた基礎的看護実践能力」(技能・表現)

すべてのライフステージ・健康レベルの対象に応じた、根拠に基づく基本的看護実践ができる技能及び表現力を身につけている。

- 14 基礎的な看護技術を身につけるために、第1学年から第2学年において「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護フィジカルアセスメント」を配置しています。また、第1学年の「基礎看護学実習Ⅰ」では患者の生活や看護を理解し、第2学年には看護過程を展開する「基礎看護学実習Ⅱ」を配置しています。
- 15 第3学年には第2学年で学んだ各領域別看護学の知識を基に、「実践看護技術学Ⅰ(成人領域)」「実践看護技術学Ⅱ(精神・母性・小児の各領域)」、第4学年には「実践看護技術学Ⅲ(高齢者・在宅領域)」の演習科目を配置し、講義内容と関連づけて看護実践能力を身につけることができるようにしています。
- 16 第3学年では臨地実習前の技術の保証として、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)を実施し、第3学年から第4学年では領域別看護学実習を行い、ライフステージの特徴や健康レベルを的確に把握し、個別的看護実践に結びつけることができるようカリキュラムを展開しています。
- 17 第4学年には夜間の実習や複数の患者を担当するなどの「総合実習」を配置し、看護実践力をより向上できるようカリキュラムを展開しています。

学習成果の評価の方針

- 1 講義の学習成果は、試験・レポート・授業での課題等により、演習や実習では課題の実施状況やレポート等で総合的に評価します。看護研究は、取り組み状況、研究成果の発表により評価します。臨床看護学実習は、各科目の評価基準(ループリック評価、レポートなど)に従って評価します。
- 2 各卒業時到達目標、コンピテンシーの達成度、および各学年で身につけた知識、技能、態度等の総合的評価は「看護学科コンピテンシー・評価対応表」により行います。
- 3 本学の看護学教育をより良いものにするため、カリキュラムの評価と検証を継続的に行います。その評価・検証体制は「アセスメント・ポリシー」に示されています。

医学系研究科医学専攻[博士課程]

旭川医科大学大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)では、学生が専攻する科目において先端的な研究を目指す「研究者コース」と臨床研究や臨床試験を推進する能力を涵養する「臨床研究者コース」の2つのコースを設けています。いずれも所属研究室における直接的な個人指導を基本とし、学生は自由かつ学問的な雰囲気の中で研究活動を行います。専門科目では研究の進行に合わせた段階的な特論、特論演習、特論実験実習などを通して、態度、知識、技能、思考・判断能力を体得していきます。研究成果を獲得し、学位論文を書き上げることで、達成感を得るとともに、継続して地域社会・国際社会に貢献する意欲・関心を育みます。上記に平行し、初年次より2年単位で展開される一連の共通講義(先端医学特論、基盤医学特論、医学論文特論)を受講し、学内の研究者との交流を深めながら、医学研究を遂行する上で必要な基礎的・応用的知識を学び、研究者としての倫理的素養を身につけていきます。このような総合的・体系的な大学院教育を通じ、将来の医学を支え、社会からの要請に応えうる指導的な人材を育成することが本博士課程の目標です。

学生は初めに上記いずれかのコースを選択しますが、研究の進展に応じ、コースの途中変更が可能です。また、研究の遂行に有益と認められる場合には、学内の他の研究室において指導を受けることや、海外を含めた学外の大学院、研究所などで研鑽を積むこともできます。さらに、初期臨床研修の1年目から大学院に在籍し、研究を早期にスタートさせる制度も採用しています。なお、共通講義については、講義室での通常の講義の他、大学院ホームページ上のeラーニングシステムを充実させ、各自の研究・研修スケジュールに合わせてそのシステムから必要な講義を効率的に受講できるよう配慮しています。以上のように、本博士課程では、学生の主体的な学びを促進するため、可能な限りフレキシブルなカリキュラムを提供するよう努めています。

学修成果の評価は、共通科目、専門科目及び学位論文についてあらかじめ定められた基準に従って行われます。なお、提出された学位論文は、大学院委員会が設置する論文審査委員会による審査及び最終試験により評価されます。

医学系研究科看護学専攻[修士課程]

- 看護学を基盤とした高度専門医療人として健康課題の問題解決にとり組むために必要な保健、医療、福祉に関する専門的知識と高い倫理観、学際的な視野に基づく実践能力および研究手法を修得し、科学的根拠に基づいた実践と研究が展開できるよう体系的にカリキュラムを編成します。
- 修士論文コースでは、共通科目で研究に関する基礎的能力を養い、各領域の特論・演習・特別研究をととして研究遂行能力を育成します。
- 高度実践コースでは、がん看護学及び高齢者看護学の共通科目・専門科目をととして高度な専門的看護の実践能力を育成します。
- 成績の評価は、学位授与の方針に基づき各科目に掲げられている履修の目的や目標の達成度をめやすとして評価します。評価は、プレゼンテーションやディスカッション、課題レポート、筆記試験、実技など各科目で設定された方法により行います。
- 科学的根拠に基づく研究方法を用いた研究成果に基づく考察を備え、学位に相応しい修士論文を作成できるよう研究指導計画書に沿った適切な助言と研究指導をします。
- 特別研究及び課題研究では、進捗状況が各年次で達成すべき水準に到達しているか、研究計画発表会等によって確認します。
- 論文審査では、研究及び学修成果が学位に相応しい内容であるかを論文審査基準にもとづき審査します。

アドミッション・ポリシー [入学者受入れ方針]

本学の教育理念、教育目標に基づくアドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）は、次のとおりです。

**医師・看護職者としての適性とともに関心を持ち、
自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力を持つ学生**

医学部

旭川医科大学の求める学生像

I. 医師・看護職者としての適性

- 全ての生命の尊厳を重んじる学生
- 社会的規範・道徳に沿って、自らの行動を律することのできる学生
- 他者を尊重し、他者を思いやる心を持つ学生
- 多様な人々と良好な関係を築くことができる学生
- 幅広い教養を身につける努力をしている学生
- 最新の知識や技術を身につけるため、学び続ける学生
- チーム医療を実践するための素養を備えた学生

II. 地域社会・国際社会への関心

- 自らの居住地域及びその住民に対して愛着を持つ学生
- 自らが所属する地域共同体のみならず、国際的視野を持ち、社会全体に貢献する志を有する学生

III. 自らが問題を見つけ解決する意欲と行動力

- 直面する問題に対し、広く世界を俯瞰し、自らが持つ知識・技能を論理的に応用することで、的確に課題を発見し、解決しようとする行動力を持つ学生

入学者に求める資質等

関心・意欲・態度

将来医師・看護職者として社会に貢献する高い志を持ち、他者に配慮し、自らを律して行動できる人

知識・技能

医学又は看護学を学ぶために必要な基礎学力を有し、課題発見能力・応用力を備えた人

思考力・判断力・表現力

課題を発見し解決するための基礎となる論理的な思考力・判断力を備え、高度なコミュニケーション能力の基礎となる教養と口頭・文章表現力を持つ人

主体性・多様性・協働性

高等学校等での総合学習や課外活動などを通じて周囲の人と良好な関係を築くことができる協調性を備え、多様な人と協働するための自己分析能力や、主体的な活動の経験を有する人

高等学校等までの各教科において、以下の能力を身につけていることを望みます。

国語

良好な人間関係を形成するために、日本語の内容を正確に理解し、自らの考えを適切に表現するとともに他者の考えを正しく理解できること

地理歴史・公民

一般社会において主体的に生きるために、良識ある公民として行動できること

数学

基礎的知識の理解と習得に加え、身の回りの事象を数学的に考察できるとともに、数学的論拠に基づいて判断できること

理科

身の回りの事象を自らの知識に基づいて科学的に判断するために、広く自然科学全般について深く洞察できること

英語

将来国際レベルで学術情報の収集・発信を行うことができるよう、英語の内容を正確に理解し、身近な話題や興味関心のあるテーマについて自らの考えを適切に表現できること

情報

情報と情報技術を活用するための技能を習得するとともに、様々な事象に対する問題発見及び解決に向けて、情報技術を適切に活用できること

入学者選抜の基本方針

各選抜区分における選抜方法及び主要評価項目は以下のとおりです。

医学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目					特記事項
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度	協働性	主体性・多様性	
一般選抜 (前期日程、後期日程)	大学入学共通テスト	●	●				[知識・技能][思考力・判断力・表現力]を備えた者を重視して選抜する。
	個別学力検査	●	●				
	面接試験及び調査書等			●	●		
総合型選抜 (北海道特別選抜)	大学入学共通テスト	●	●				学力等とともに、医学の分野で北海道の医療及び社会に貢献する強い意欲を持っている者を選抜する。
	課題論文試験	●	●				
	面接試験及び調査書等			●	●		
学校推薦型選抜 (道北・道東特別選抜)	大学入学共通テスト	●	●				学力等とともに、北海道の上川中部を除く道北、道東並びに北空知及び中空知地域における医療に貢献する強い意欲がある者を選抜する。
	課題論文試験	●	●				
	面接試験及び調査書等			●	●		
私費外国人留学生選抜	個別学力検査	●	●				出身学校が発行する成績証明書の内容、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績を総合的に評価する。
	面接試験			●	●		
第2年次編入学	個別学力検査	●	●				大学等での学修及び社会経験により身につけた資質等を評価する。学力等とともに、北海道の地域医療を理解し、北海道の医療に貢献する強い意欲のある者を選抜する。
	面接試験			●	●		

看護学科

選抜区分	選抜方法	主要評価項目					特記事項
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	関心・意欲・態度	協働性	主体性・多様性	
一般選抜 (前期日程)	大学入学共通テスト	●	●				[知識・技能][思考力・判断力・表現力]を備えた者を重視して選抜する。
	小論文試験	●	●				
	面接試験及び調査書等			●	●		
一般選抜 (後期日程)	大学入学共通テスト	●	●				[知識・技能][思考力・判断力・表現力]を備えた者を重視して選抜する。
	面接試験及び調査書等			●	●		
学校推薦型選抜	面接試験及び調査書等	●	●	●	●		能力及び適正等を総合的に評価するとともに、看護学に関する学修意欲が特に強く、将来は看護の専門分野における実務・指導に携わることを決意している者を選抜する。
私費外国人留学生選抜	個別学力検査	●	●				出身学校が発行する成績証明書の内容、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の成績を総合的に評価する。
	面接試験			●	●		

大学院医学系研究科

博士課程(医学専攻)

求める学生像

- 1 知的好奇心を持ち、生命科学、社会医学、臨床医学の研究を志す人
- 2 医学・医療を通して、社会へ貢献することに情熱を持つ人
- 3 研究成果を世界に向けて発信し、世界と共有する意欲のある人
- 4 自ら課題を見つけ、研究を遂行するために必要な学問的素養と論理的能力を備えた人
- 5 自ら必要な情報を収集し、論文を作成し、発表するために必要な言語的能力を備えた人
- 6 コミュニケーション能力を備え、周囲の人々と相互的な協力関係を築ける人

入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、学力検査の成績、面接の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

学力検査においては基礎学力を、面接においては医療人・研究者としての適性と向上心を評価します。

修士課程(看護学専攻)

求める学生像

- 1 高い問題意識と倫理観を備え、論理的思考力と科学的根拠に基づき、問題解決にとり組む意欲と探究心のある人
- 2 志望する専攻領域の基礎的知識を身につけている人
- 3 豊かな人間性を備え、保健・医療・福祉の向上に貢献するため教育・研究・看護実践で指導的役割を担う意志のある人
- 4 研究や問題解決に主体的に取り組み、学際的に協働するため必要なコミュニケーション能力を備えている人
- 5 専門看護師として、看護実践・研究に指導的役割を担う意志のある人(高度実践コース)

入学者選抜の基本方針

「求める学生像」で示す能力等を多面的に評価するため、小論文、口述試験(志望する専門領域に関する事項)の結果及び成績証明書の内容を総合的に審査して選抜します。

小論文においては、理解力、論理的思考力、文章表現力を、口述試験においては探求心、研究への意欲等を評価します。



アフリカ地域における 環境保健シンポジウムの開催について

JICA北海道及びケニア保健省の協力のもと、令和7年1月29日から1月30日にかけて、「アフリカ地域における環境保健シンポジウム」をナイバシャ(ケニア)にて開催し、会場25名、オンライン42名の合計67名が参加しました。

本シンポジウムは、本学にて2008年から2023年にかけて実施したJICA課題別研修「アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政」の帰国研修員を主な対象としたもので、ケニア保健省 予防・保健サービス・疾病管理局長であるDr. Joseph Kamario Lenai(2015年度帰国研修員)を共同議長に選出し、ケニア、ザンビア、マラウイ、セネガル、ガーナの帰国研修員5名に加えて、ケニア国内の環境保健関係者4名が講演者として登壇しました。

シンポジウムでは各国における課題解決に向けた様々な取り組みやアイデアが共有されるとともに、帰国研修員による今後5年間の行動計画を示したJICA-AMU Alumni Strategic Framework 2025-2030が取りまとめられました。



ランパーン病院(タイ)との国際交流

令和7年1月15日から17日の日程で、前年に国際交流協定を締結したランパーン病院(タイ)より、Worachet Taecharak病院長、Nuttapon Arayawudhikul胸部心臓外科長、Chuleephorn Nonthasoot医学教育センター長の3名が来訪しました。15日には本学小講堂にて「タイの医療」、「ランパーン病院の心臓血管外科手術」、「タイの医学教育」という3つのテーマで講演会を行い、16日には学生交流覚書の調印式を執り行いました。17日にはNuttapon先生による模範手術が実施され、厚生労働省の臨床教授許可のもと、全動脈グラフトを用いた人工心肺非使用の冠動脈バイパス術が施行されました。

令和7年1月にはランパーン病院から初の留学生を受け入れ、令和7年9月には本学学生の派遣留学が予定されています。今後も技術・学術面をはじめ、幅広い分野での交流と連携強化が期待されます。



国立研究開発法人 医薬基盤・健康・ 栄養研究所との連携協定締結

本学と国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所は、相互に連携・協力することにより、研究交流の促進と研究活動の発展を期するとともに、本学大学院における教育研究の一層の充実と学生の資質の向上を図り、研究力の強化を通じて地域医療に貢献していくことを目的として、令和7年4月に連携・協力に関する協定を締結しました。

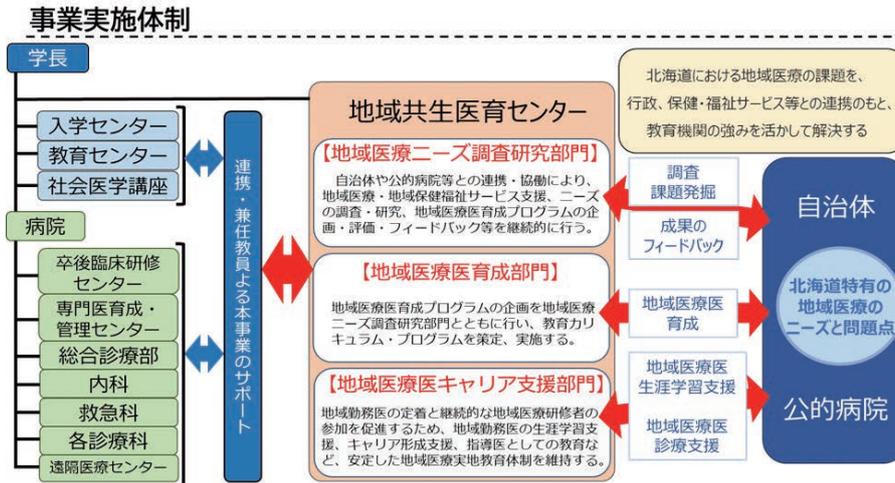
本協定は、本学内科学講座(消化器内科学分野)の水上裕輔教授が、クロスアポイントメント制度を活用して同研究所に勤務していることを契機として実現したものです。

今後は、同研究所が本学大学院医学系研究科の「連携大学院」となり、互いに協力しながら大学院生に対する教育・研究指導を行い、AIやデジタルを活用した新たな医療技術の研究や人材交流などを通じて、地域医療が抱える課題の解決に取り組んでいきます。



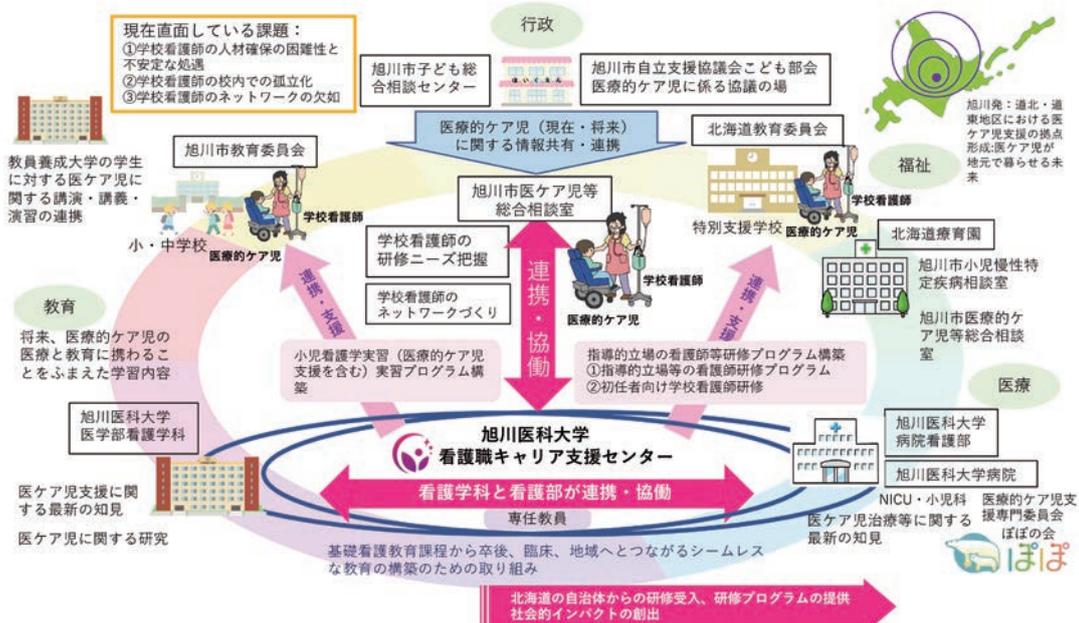
マルチタスク型地域医療医の育成体制の構築【地域共生医育センター】

北海道においては、病院総合診療、家庭・在宅医療、離島僻地医療、救急災害医療に広く精通するマルチタスク型地域医療医の必要性が高まっています。本学では全学的な協働のもと、北海道適合マルチタスク型地域医療医を育成する体制の構築に取り組み始めました。



医療的ケア児の未来を拓く北の架け橋プロジェクト： 地域連携・協働による医療的ケア児支援を目指す「旭川モデル」の構築

医療技術の進歩に伴い、特別支援学校のみならず、地域の小・中学校においても医療的ケアが必要な児童は増加していますが、社会における支援体制はまだ十分ではありません。日常的に医療的ケアを必要とする児童を育てる家族は、負担が大きいうえに社会から孤立しやすいことが社会問題となっています。本プロジェクトでは教育的な視点を持って保育や教育現場で働く新たな看護師を養成するリスキリング教育プログラムの策定とその実施を行います。さらに、社会において医療的ケア児及びその家族に対する理解や支援の輪が広がるよう、市民講演会や教員養成大学での講義なども行っていきます。



パルスオキシメータ展示コーナーの新設

世界的に貴重な開発初期のパルスオキシメータの恵贈を受け、令和7年3月31日に大学の中央玄関ホールに展示コーナーを設置しました。展示された2台の機器は、パルスオキシメータ普及の礎となったもので、世界中で本機以外は現存していないと推測されています。2台のうち、指尖測定型パルスオキシメータMET-1471(1977年製)は現在の様に指先で酸素飽和度を測定する最初の機器であり、旭川医大病院において、食道がん術後呼吸不全患者さんに実臨床使用され、1977年にフルシャワで開かれた第12回ヨーロッパ実験外科学会において世界初の臨床応用報告が行われました。この世界初の臨床報告を行ったのは当時本学第一外科に所属していた中島進氏です。本展示コーナーの設置により、旭川医大がパルスオキシメータの世界的普及に果たした貢献を、幅広く学内外の皆様にご覧いただけることを期待しています。

向かって左：耳介測定型パルスオキシメータOLV-5100(1975年製)
向かって右：指尖測定型パルスオキシメータMET-1471(1977年製)



看護師特定行為研修第3期修了、第4期開始について

令和6年9月に第3期研修が修了し、院外からの1名を含む4名が修了しました。当院に在籍する特定行為研修修了者は13名となりました。特定行為の実施件数は、令和5年度の354件から令和6年度は485件に増加しています。看護師の活動拡大により、チーム医療の推進、医師の負担軽減、何よりも患者さんの笑顔につながることを期待しています。

第4期研修の構想では、手術患者さんが多い当院の現状と、地域医療に貢献という基本理念の2点を考慮しました。そこで術中の看護の質向上とチーム医療の推進を目的に術中麻酔管理領域コースを新設するとともに、多くの看護師のニーズに応えるため区分別コースを2区分追加し10区分に拡充しています。術中麻酔管理領域コースと新設の区分別コースはそれぞれ2名が受講し、日々知識と技術の習得に励んでいます。また、今期は院外から2名の研修受講者を受け入れています。今後も時代のニーズに応え、地域医療と看護に貢献する研修運営に努めます。



耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 熊井 琢美 講師

「第4回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 学会賞」受賞

令和6年4月12日に、本学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の熊井 琢美 講師が「頭頸部癌に対する革新的免疫療法の開発」というテーマで、「第4回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 学会賞」を受賞しました。

本賞は耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域及びその関連領域に関する免疫学、アレルギー学、及び感染症学において顕著な基礎研究または臨床研究の業績を有し、本領域の発展に大いに貢献することが期待されるものに1名、学会賞として贈られるものです。

海外医療支援活動の実施について

令和7年3月22日から29日にかけて、歯科口腔外科学講座を中心とする診療隊5名(医学生1名を含む)がベトナム・ベンチエ省を訪問し、グエンディンチュー病院にて口唇口蓋裂患者を対象とした無償での医療支援活動を実施しました。この活動は、日本口唇口蓋裂協会が行う短期滞在型医療援助活動に同行する形で実施したもので、今回の活動には全国の大学病院や総合病院から、歯科口腔外科医、麻酔科医、産婦人科医、小児科医、看護師に加えて、医学生、歯学生、記者など総勢約50名が参加しました。

術前診察には約100名の患者が来院し、5日間で39名の患者に対して手術を行いました。日本での口蓋形成術は体重10kg以上、年齢1歳6か月頃が目安とされていますが、今回、口蓋形成術を行った14例中3例は20歳以上で、最高齢は39歳でした。これは経済的理由などにより、適切な時期に手術を受けられなかったことが推察され、このような医療支援活動の重要性を改めて認識する機会となりました。



集合写真



手術の様子



旭川医科大学からの診療隊

スポーツ医科学市民講演会について

令和7年2月21日、旭川市民文化会館にて「令和6年度スポーツ医科学市民講演会」を開催しました。本講演会は、スポーツ医科学の研究成果を広く社会へ還元することを目的としており、今年度も多くの皆様にご参加いただきました。今回は、バレーボール女子日本代表・前キャプテンの古賀紗理那氏をゲストに迎え、本学整形外科の小原和宏医師との対談形式で、「選手とチームドクターが語るケガとパフォーマンス」をテーマに講演を実施。トップアスリートの体験談やスポーツ医療の現場に基づく知見が共有され、参加者からは「日常にも活かせる貴重な話だった」との声が寄せられました。今後も本学は、スポーツ医科学の発展と社会貢献に努めてまいります。



旭川医科大学は旭川市により「多様な働き方推進事業者」に認定されました

本学は令和6年度、誰もが働きやすく活躍できる職場環境づくりに積極的に取り組む「多様な働き方推進事業者」として旭川市から認められ、ゴールド認定を受けました。

今から18年前の平成19年に「より働きやすく、学びやすい環境にすること」を使命として復職・子育て・介護支援センター(通称：二輪草センター)を学内に設置し、仕事と家庭生活の両立をサポートすることで、出産や育児、介護をしながらも職員が生き生きと働ける環境整備に取り組んでいます。今後も、職員の悩みや困りごとに耳を傾け、よりよい環境を提供し、大学及び病院で働く全職員が安心して働ける、あるいは、働きたいと思える場所を提供できるように引き続き取り組んでまいります。

本学では未来の医療につながる研究成果を様々な分野の講座から発信しています。ここでは、その一部をご紹介します。

Development of Novel Heart Valve Therapy Using Autologous Tissue-Engineered Artificial Heart Valve (自己組織工学人工心臓弁による新規心臓弁治療の開発)

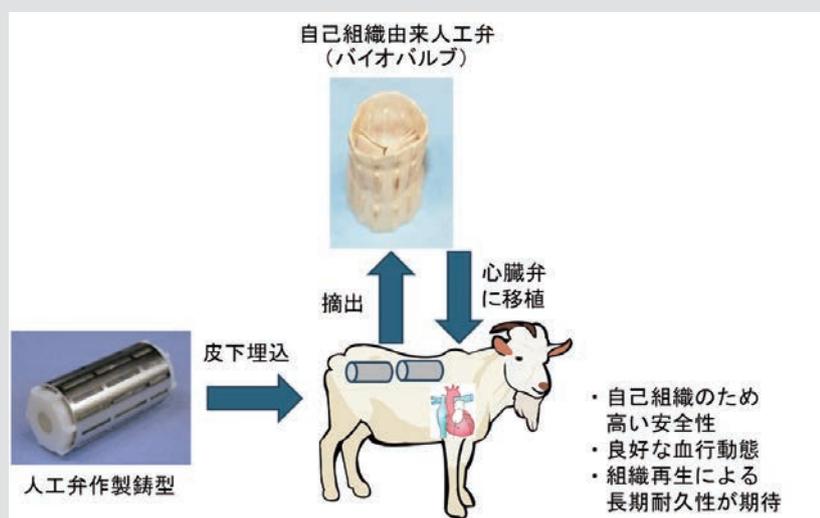
先進医工学研究センター 助教 佐藤 康史

心臓弁が先天的な異常や加齢に伴う変性で障害されると、「弁膜症」と呼ばれる疾患が生じ、血液の逆流や狭窄によって心臓に過剰な負担がかかり、心不全に至ることがあります。重症患者には人工心臓弁へ置換する手術が行われていますが、現在臨床で用いられている人工心臓弁(機械弁、異種生体弁)には、それぞれ課題があります。機械弁はカーボンなどの人工物でできているため、生涯にわたる抗凝固薬の服用が必要であり、異種生体弁はウシやブタの組織でできており、時間経過とともに弁組織が変性し、耐久性が低いとされています。また、これらの人工弁は生体適合性が低い材料であるため、成長や再生といった機能を持たず、小児や若年者への応用には限界があります。

こうした課題に対し、先進医工学研究センターでは生体内組織形成術[※]により、患者自身の組織から構成される新しい人工心臓弁「バイオバルブ」の開発を行っています。本手法では、心臓弁形状を模したプラスチック製鋳型を動物の皮下に埋め込み、約2か月間で自己組織による被覆を形成させたのち、鋳型を取り除くことで自己組織由来の人工心臓弁を作製します。本研究ではヤギを用い、作製したバイオバルブを肺動脈弁に移植し、機能評価を実施しました。

その結果、移植後も弁は正常な血流を維持し、血栓形成も認められませんでした。さらに6か月後には周囲組織から細胞が入り込み、組織構造の変化が確認され、再生能が示唆されました。これらの結果から、バイオバルブは高い抗血栓性と耐久性、さらには成長性を有し、服薬や再手術リスクの低減につながるため、成人に加え、小児患者にも適応可能な次世代の人工心臓弁として有望であると考えられます。さらに、鋳型の形状を調整することで、患者個別の解剖に対応した弁の作製が可能であり、個別化医療の実現にも寄与します。このようにバイオバルブは幅広い世代の弁膜症患者のQOL向上に大きく貢献することが期待されます。

※生体内組織形成術は、生体の防御反応であるカプセル化反応を利用して、移植用の生体組織を構築する技術です。この方法では、あらかじめ目的形状に設計された鋳型を皮下に埋め込み、一定期間経過後に、その周囲に形成された自己組織(主にコラーゲンを含む結合組織)を取り出し、治療に用います。従来の体外での細胞培養に比べ、特殊な培養環境を必要とせず、低コストかつシンプルな工程で移植用の生体組織を得ることができます。本技術は、再生医療や医療機器開発において、新しい生体組織構築手法として注目されています。



○この研究成果は令和6年10月に全米医学アカデミー(NAM)カタリスト・アワード(Catalyst Award)受賞、および令和7年4月にNature Springer出版社の科学雑誌Journal of Artificial Organsに掲載されました。

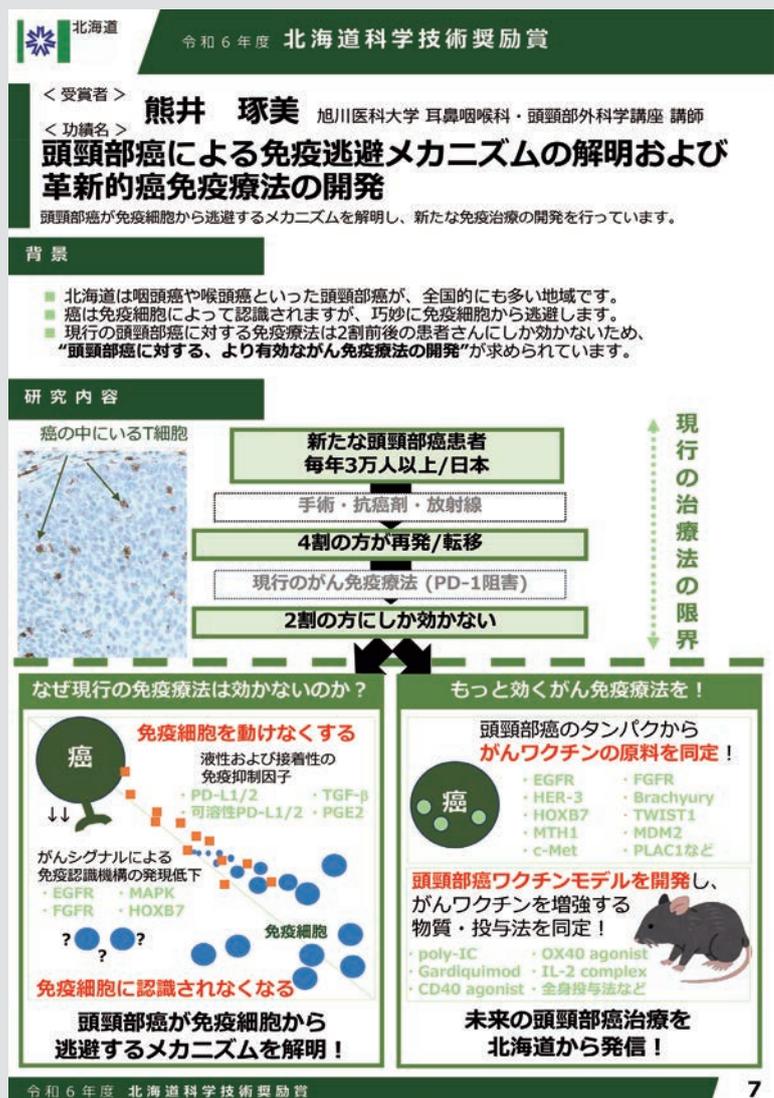
令和6年度北海道科学技術奨励賞 受賞に際して

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師 熊井 琢美

この度、「令和6年度北海道科学技術奨励賞」を授与頂く機会に恵まれたため、その概要についてご紹介致します。本賞は私がこれまで邁進してきた「頭頸部癌による免疫逃避メカニズムおよび革新的癌免疫療法の開発」というテーマで受賞頂きました。本賞は北海道の発展に寄与することが期待される科学技術上の優れた発明、研究を行い、今後の活躍が期待される若手研究者に知事表彰として贈られるものであり、今後の研究を支える大きな励みになっています。本稿では、授賞テーマの概略(下図)についてお示し致します。

のどや口に発生する頭頸部癌は世界で6-7番目に多い癌であり、日本でも毎年3万人以上の方が罹患しています。特に北海道は、他の都府県に比べて頭頸部癌患者さんが多い地域です。これまで多くの頭頸部癌患者さんの快復に携われたと同時に、多くの患者さんが闘病の果てに亡くなる時間にも寄り添ってきました。できることは精一杯やたと自分に言い聞かせても止まない、忸怩たる無念さが私を基礎研究の道へと誘いました。研究テーマとして選んだのは癌免疫です。手術や抗癌剤、放射線療法は現在も癌治療の柱ですが、これらの手法は円熟を迎えており改良点はわずかです。癌に免疫細胞が働きかけるといった概念は19世紀から提唱されていましたが、癌免疫の詳細が解明されてきたのはこの20-30年です。本庶博士がノーベル賞を受賞するきっかけにもなったPD-1/PD-L1は、癌が免疫細胞を弱らせる代表的な因子です。頭頸部癌では、PD-1の阻害薬が2017年から患者さんに投与されています。しかし、PD-1阻害薬は2割前後の頭頸部癌患者さんにしか効きません。その理由を解明すべく、まずは頭頸部癌が免疫細胞から逃避するメカニズムについて研究を始めました。癌細胞は免疫細胞を抑制する因子(TGF-bなど)を積極的に分泌しており、また免疫細胞に接着してその機能を落とす分子(PD-L1/2やLAG3など)も多数発現していました。これらの分子が発現している患者さんでは、PD-1阻害薬の有効性が不十分なことも見出されました。さらに、癌細胞は増殖シグナルと考えられているEGFRやMAPキナーゼを介してMHC分子の発現を低下させることで、免疫細胞から認識されづらいことも明らかとなりました。

次に、癌免疫を有効に活用する方法として、がんワクチンに着目しました。癌由来の成分を体に投与することで、癌に対する免疫細胞を活性化させる手法です。私どもの研究チームでは頭頸部癌から免疫細胞を賦活化させる物質(エピトープペプチド)を世界に先駆けて10種類以上同定しており、これらの物質は将来のがんワクチンの資材として有望です。免疫細胞をより有効に増やすための免疫賦活化物質(アジュバント)も、世界初となる頭頸部癌関連抗原ワクチンモデルで複数突き止めています。私は故郷である旭川という土地から目の前の患者さんを助ける医療に一所懸命身を捧げるのはもちろん、未来の人々の健康のため、医学の進歩に貢献しようという志を持って基礎研究を行ってきました。この度受賞頂いた研究内容が、旭川や北海道、日本、世界といった距離や時間軸を駆け抜けて、未来の世界中の癌患者さんの手助けになることを切に願っています。



赤ちゃんの口唇口蓋裂発症のリスクを調査 —10万人規模の日本全国調査から見た予防の鍵—

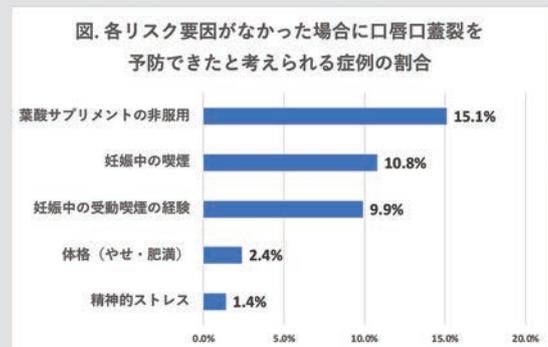
社会医学講座 講師 佐藤 遊洋

口唇口蓋裂は、妊娠中に上唇や口の中の上側の部分(口蓋)がうまく形成されず、裂ができてしまう先天異常です。日本では、生まれてくる赤ちゃんの約500人に1人という比較的高い頻度で生じるとされています。これまでの研究調査により、口唇口蓋裂の発症原因は遺伝的な要因と妊娠中の環境が関係していると考えられています。しかし、どの環境要因がどれくらい影響しているのかは詳しく分かっていませんでした。

そこで私たちは、日本全国の約10万組の親子を対象とした「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」の健康データを用いて、改善可能と考えられるリスク要因(妊娠中の母親の精神的ストレス、喫煙、飲酒、体格(やせ・肥満)、葉酸サプリメントの非服用)が、口唇口蓋裂の発生にどれだけ寄与しているかの割合を算出しました。この割合は、「もしも、そのリスク要因がなかった場合に、症例全体の何パーセントを予防できたのか」を示す指標で、公衆衛生上の対策を考える上で重要な手がかりとなります。

研究対象となった母親と出生児の健康データを解析した結果、口唇口蓋裂の発生に対する各リスク要因の寄与している割合は、「妊娠中に葉酸サプリメントを服用していなかったこと」が15.1%と最も高く、次いで「妊娠中の母親の受動喫煙の経験」が10.8%、「妊娠中の母親の喫煙」が9.9%と続きました。これは、もし妊娠中の全ての女性が葉酸サプリを適切に摂取、または、たばこの煙にさらされることがなければ、口唇口蓋裂の発生をそれぞれ1割ほど減らせる可能性があることを示唆しています。さらに、飲酒を除いたリスク要因(妊娠中の精神的ストレス、喫煙、体格(やせ・肥満)、葉酸サプリメントの非服用)をすべて改善できたと仮定した場合、口唇口蓋裂の発生は全体で34.3%も減少する可能性があることが算出されました。これは、日本で発生している口唇口蓋裂の約3分の1が、生活習慣や環境の改善によって予防できる可能性を示しています。

本研究により、個人の健康意識向上だけでなく、禁煙区域の拡大といった社会的な取り組みや、葉酸摂取の重要性に関する啓発活動が将来の子どもたちの健康を守る上で重要であることを示しています。



○この研究成果は令和3年4月に日本疫学会の国際学会誌 Journal of Epidemiologyに掲載されました。

寄生虫トキソプラズマはどうやってヒトの脳に寄生するのか? ～潜伏感染と再活性化機構の解明～

感染症学講座(寄生虫学分野) 准教授 伴戸 寛徳

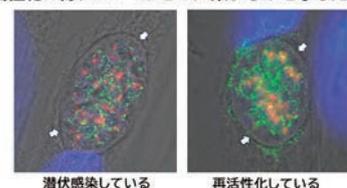
寄生虫の一種であるトキソプラズマは、ヒトに感染すると脳内で潜伏感染し続けます。普段は免疫の働きで増殖が抑え込まれていますが、免疫力が低下すると、トキソプラズマは再び活性化して急速に増殖し始めることで、脳炎や脈絡網膜炎などの重篤なトキソプラズマ症を引き起こすことがあります。

猫がいる地域であればどこでも感染する可能性があるため、私たちにとって身近な寄生虫であり、世界の人口の約3分の1以上が、すでに脳の中にトキソプラズマを抱えているとも言われています。トキソプラズマはヒトの脳内に感染すると、「シスト」と呼ばれる丈夫な殻に守られた構造の中に隠れますが、再び活性化する時には自分でシストを壊して外に出できます。しかし、どのようにして再び活動を始めるのか、その仕組みは明らかになっておらず、根治薬も開発されていません。

本研究ではまず、トキソプラズマが再活性化する時に重要な働きをするタンパク質を探索する研究を行いました。その結果、トキソプラズマの活動が再び始まる時に、「CLP1(Chitinase-like protein 1)」と呼ばれるタンパク質の発現が増えることを発見しました。そこで次に、CLP1の機能解明を行った結果、「図の右の写真」に示されているように、CLP1はトキソプラズマが再活性化する時にシストの周囲に集まり、その過程で重要な役割を果たしていることを明らかにしました。

この研究により、再活性化の仕組みの一端を解明する手がかりが得られただけでなく、将来的にトキソプラズマの根治薬の開発にもつながると期待されています。

トキソプラズマがシストの中に潜んでいる様子と、再活性化の際にCLP1がどこに集まるかを示した写真



潜伏感染している

再活性化している

- ・ 矢印: トキソプラズマのシスト
- ・ 緑色: CLP1タンパク質
- ・ 赤: トキソプラズマの細胞小器官
- ・ 青: 核

○この研究成果は、令和6年5月17日に、学術雑誌 Frontiers in Cellular and Infection Microbiology に掲載されました。

沿革

昭和47年	7月 1日	旭川医科大学創設準備室設置
昭和48年	9月29日	旭川医科大学設置(旭川医科大学創設準備室廃止)
	11月 5日	第1回(48年度)入学式挙行
	11月20日	開学記念祝典挙行
昭和50年	4月 1日	附属病院創設準備室設置
昭和51年	5月10日	医学部附属病院設置(附属病院創設準備室廃止)
	10月26日	医学部附属病院開院記念祝典挙行
	11月 1日	医学部附属病院開院
昭和54年	3月24日	第1回(53年度)卒業証書授与式挙行
	4月 1日	大学院医学研究科設置
昭和58年	3月25日	第1回(57年度)学位記授与式挙行
	6月15日	開学10周年記念式典挙行
平成 5年	11月 5日	開学20周年記念式典挙行
平成 8年	4月 1日	医学部看護学科設置
平成11年	3月10日	学章を制定
平成12年	4月 1日	大学院医学系研究科に修士課程看護学専攻を設置
平成14年	4月 1日	看護学科3大講座制を1大講座制に改組
平成15年	11月 5日	開学30周年記念式典挙行
平成16年	4月 1日	国立大学法人旭川医科大学発足
平成17年	11月 1日	医学部附属病院を旭川医科大学病院に変更
平成18年	4月 1日	医学科基礎医学1大講座及び12講座を5大講座及び4講座に、臨床医学19講座を2大講座及び14講座に再編
平成25年	11月 5日	開学40周年記念式典挙行
令和 4年	3月 5日	看護学科開設25周年記念式典挙行
令和 5年	4月 1日	教育研究推進センターを 研究推進本部と研究技術支援センターに改組
		国際交流推進センターを設置
	5月 1日	寄附講座「消化器疾患病態学講座」[~令和8年4月30日]
	8月 9日	形成・再建外科学開設
	10月 1日	内科学講座3分野6部門を5分野へ改組
	11月 4日	開学50周年記念式典挙行
令和 6年	4月 1日	地域共生医育統合センターを地域共生医育センターへ改称
令和 7年	4月 1日	研究技術支援センターを3部門へ改組



旭川医科大学創設準備室設置



旭川医科大学設置



第1回(48年度)入学式挙行

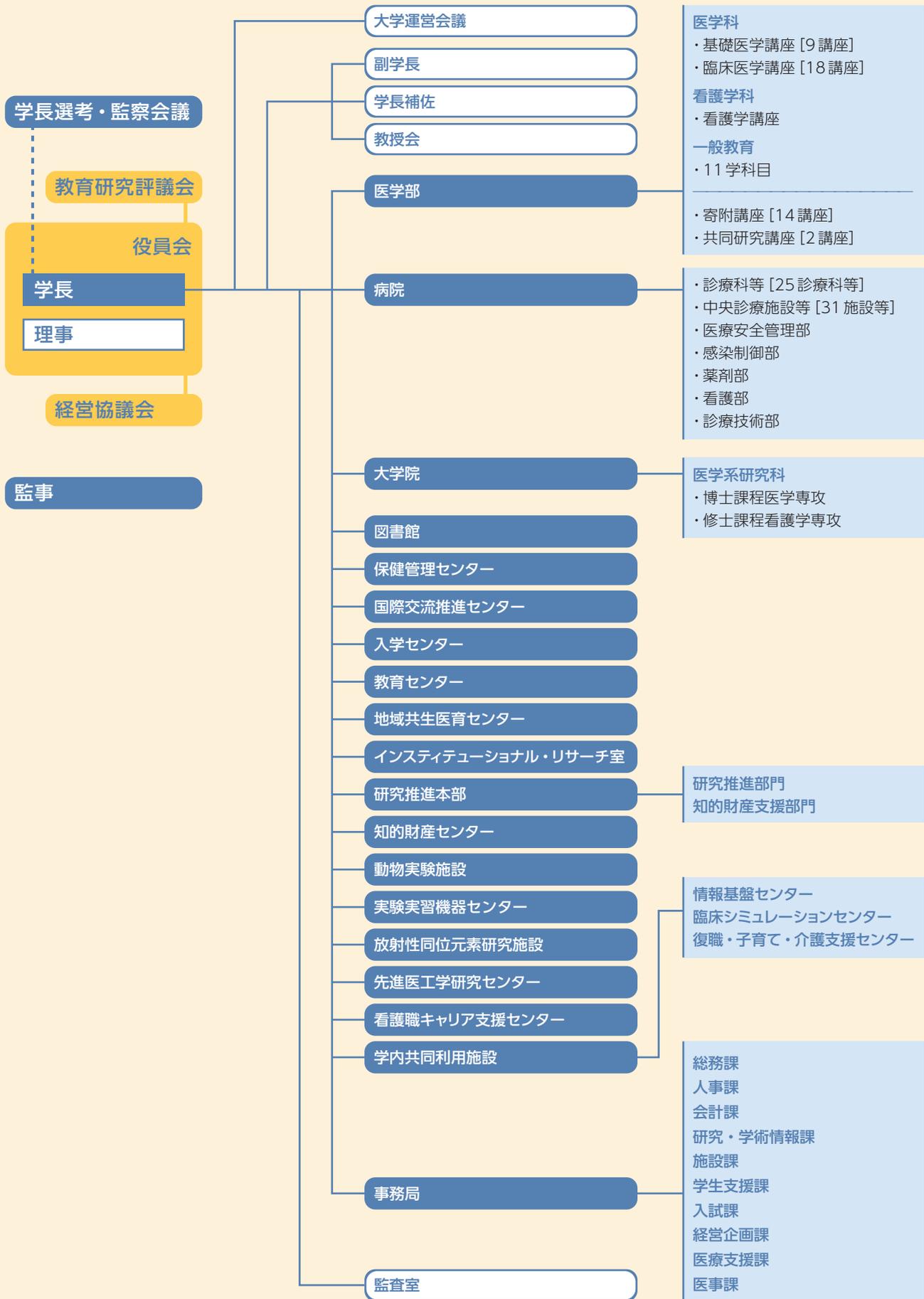


医学部附属病院開院



開学50周年記念式典挙行

組織機構図



役職員・歴代学長等

国立大学法人旭川医科大学

令和7年7月1日現在

役員			
学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	
理事、副学長 入試、教育、人事・組織担当	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu	
理事、副学長 医療、評価、国際交流担当	東 信良	AZUMA Nobuyoshi	
理事 社会連携担当	辻 泰弘	TSUJI Yasuhiro	
理事 地域医療担当	佐古 和廣	SAKO Kazuhiro	
監事	吉崎 敏樹	YOSHIZAKI Toshiki	
	村木 一行	MURAKI Kazuyuki	

経営協議会委員			
学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	
理事	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu	
理事	東 信良	AZUMA Nobuyoshi	
理事	辻 泰弘	TSUJI Yasuhiro	
副学長(財務担当)	吉原 秀昭	YOSHIHARA Hideaki	
旭川市副市長	中村 寧	NAKAMURA Yasushi	
旭川信用金庫会長	原田 直彦	HARADA Naobiko	
江別市立病院事業管理者	長谷部 直幸	HASEBE Naoyuki	
NPO法人旭川文学資料友の会副会長	白井 恵理子	SHIRAI Eriko	
社会福祉法人北海道社会事業協会 富良野協会病院名誉院長	角谷 不二雄	KAKUYA Fujio	
旭川市立大学学長	三上 隆	MIKAMI Takashi	

教育研究評議会評議員			
学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	
理事	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu	
理事	東 信良	AZUMA Nobuyoshi	
理事	辻 泰弘	TSUJI Yasuhiro	
理事	佐古 和廣	SAKO Kazuhiro	
副学長	川辺 淳一	KAWABE Junichi	

副学長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
副学長	牧野 雄一	MAKINO Yuichi
副学長	吉原 秀昭	YOSHIHARA Hideaki
図書館長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
医学部医学科長	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu
医学部看護学科長	升田 由美子	MASUDA Yumiko
基礎医学講座教授	西條 泰明	SAIJO Yasuaki
臨床医学講座教授	紙谷 寛之	KAMIYA Hiroyuki
看護学科教授	長谷川 博亮	HASEGAWA Hiroaki
一般教育教授	工藤 直志	KUDO Tadashi
センター等教授	武輪 能明	TAKEWA Yoshiaki
事務局長	吉原 秀昭	YOSHIHARA Hideaki

旭川医科大学			
学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	
副学長 入試、教育、人事・組織担当	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu	
副学長 医療、評価、国際交流担当	東 信良	AZUMA Nobuyoshi	
副学長 研究担当	川辺 淳一	KAWABE Junichi	
副学長 産学連携担当	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro	
副学長 地域医療医育成担当	牧野 雄一	MAKINO Yuichi	
副学長 財務担当	吉原 秀昭	YOSHIHARA Hideaki	
学科長・専攻長 医学部医学科長	奥村 利勝	OKUMURA Toshikatsu	
医学部看護学科長	升田 由美子	MASUDA Yumiko	
大学院博士課程医学専攻長	川辺 淳一	KAWABE Junichi	
大学院修士課程看護学専攻長	藤井 智子	FUJII Tomoko	
学長補佐 IR担当	松本 成史	MATSUMOTO Seiji	
広報担当	西條 泰明	SAIJO Yasuaki	
学長アドバイザー	森 千里	MORI Chisato	

医学部			
医学科			
基礎医学講座			
解剖学	機能形態学	教授 吉田 成孝	YOSHIDA Shigetaka
	顕微解剖学		
生理学	自律機能	教授 入部 玄太郎	IRIBE Gentaro
	神経機能		
生化学		教授 川辺 淳一	KAWABE Junichi

薬理学	教授 中山 恒	NAKAYAMA Koh	
病理学	腫瘍病理	教授 高澤 啓	TAKASAWA Akira
	免疫病理	教授 小林 博也	KOBAYASHI Hiroya
感染症学	微生物学	教授 原 英樹	HARA Hideki
	寄生虫学	教授 迫 康仁	SAKO Yasuhiro
社会医学	教授 西條 泰明	SAIJO Yasuaki	
法医学	教授 清水 恵子	SHIMIZU Keiko	
先端医科学	教授 船越 洋	FUNAKOSHI Hiroshi	

医学科

臨床医学講座

内科学	教授	中川 直樹	NAKAGAWA Naoki
	教授	野本 博司	NOMOTO Hiroshi
	教授	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiko
	教授	水上 裕輔	MIZUKAMI Yusuke
精神医学	教授	橋岡 禎征	HASHIOKA Sadayuki
小児科学	教授	高橋 悟	TAKAHASHI Satoru
外科学	教授	東 信良	AZUMA Nobuyoshi
	教授	紙谷 寛之	KAMIYA Hiroyuki
	教授	横尾 英樹	YOKOO Hideki
整形外科	教授	伊藤 浩	ITO Hiroshi
皮膚科学	教授	藤田 靖幸	FUJITA Yasuyuki
腎泌尿器外科学	教授	沼倉 一幸	NUMAKURA Kazuyuki
眼科学	教授	長岡 泰司	NAGAOKA Taiji
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	教授	高原 幹	TAKAHARA Miki
産婦人科学	教授	加藤 育民	KATO Yasuhito
放射線医学	教授	沖崎 貴琢	OKIZAKI Atsutaka
麻酔・蘇生学	教授	牧野 洋	MAKINO Hiroshi
脳神経外科学	教授	木下 学	KINOSHITA Manabu
歯科口腔外科学			
救急医学	教授	岡田 基	OKADA Motoi
地域医療教育学	教授	野津 司	NOZU Tsukasa
地域がん診療連携			
形成・再建外科学	教授	林 利彦	HAYASHI Toshihiko

看護学科

看護学講座

看護学	教授	伊藤 俊弘	ITO Toshihiro
	教授	小田嶋 裕輝	ODAJIMA Yuki
	教授	菅原 峰子	SUGAWARA Mineko
	教授	長谷川 博亮	HASEGAWA Hiroaki
	教授	濱田 珠美	HAMADA Tamami
	教授	平 義樹	HIRA Yoshiki
	教授	藤井 智子	FUJII Tomoko
	教授	升田 由美子	MASUDA Yumiko
	教授	山内 まゆみ	YAMAUCHI Mayumi
	教授	山根 由起子	YAMANE Yukiko

一般教育

歴史・哲学			
心理学	教授	池上 将永	IKEGAMI Masanaga
社会学	教授	工藤 直志	KUDO Tadashi

数学			
数値情報科学	教授	高橋 龍尚	TAKAHASHI Tatsuhisa
物理学	教授	本間 龍也	HONMA Tatsuya
化学	教授	眞山 博幸	MAYAMA Hiroyuki
生物学	教授	日下部 博一	KUSAKABE Hirokazu
生命科学			
英語	教授	三好 暢博	MIYOSHI Nobuhiro
ドイツ語			

センター等

図書館	館長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiko
保健管理センター	センター長	北野 陽平	KITANO Yohei
国際交流推進センター	センター長	東 信良	AZUMA Nobuyoshi
入学センター	センター長	西條 泰明	SAIJO Yasuaki
教育センター	センター長	佐藤 伸之	SATO Nobuyuki
地域共生医育センター	センター長	牧野 雄一	MAKINO Yuichi
インスティテューショナル・リサーチ室	室長	松本 成史	MATSUMOTO Seiji
研究推進本部	本部長	川辺 淳一	KAWABE Junichi
知的財産センター	センター長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiko
動物実験施設	施設長	松本 成史	MATSUMOTO Seiji
実験実習機器センター	センター長	高澤 啓	TAKAZAWA Akira
放射性同位元素研究施設	施設長	川辺 淳一	KAWABE Junichi
先進工医学研究センター	センター長	武輪 能明	TAKEWA Yoshiaki
看護職キャリア支援センター	センター長	升田 由美子	MASUDA Yumiko
情報基盤センター	センター長	武輪 能明	TAKEWA Yoshiaki
臨床シミュレーションセンター	センター長	牧野 洋	MAKINO Hiroshi
復職・子育て・介護支援センター	センター長	谷野 美智枝	TANINO Mishie
監査室	特任室長	松井 敏	MATSUI Satoshi

病院

病院長		東 信良	AZUMA Nobuyoshi
副病院長	外来・医療機関連携、医療機器担当	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiko
副病院長	多職種連携・PFM担当	大田 哲生	OTA Tetsuo
副病院長	事故防止、評価、臨床研究担当	松本 成史	MATSUMOTO Seiji
副病院長	経営・企画、国際担当	紙谷 寛之	KAMIYA Hiroyuki
副病院長	患者サービス、ボランティア担当	井戸川 みどり	IDOGAWA Midori
病院長補佐	職員啓発担当	田崎 嘉一	TASAKI Yoshikazu
病院長補佐	病院倫理担当	木下 学	KINOSHITA Manabu
病院長補佐		牧野 雄一	MAKINO Yuichi
病院長補佐		沖崎 貴琢	OKIZAKI Atsutaka
病院長補佐		岡田 基	OKADA Motoi

病院長補佐		林 達哉	HAYASHI Tatsuya
外来主任科長		藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
診療科等			
内科(循環器・腎臓)	科長	中川 直樹	NAKAGAWA Naoki
内科(呼吸器・脳神経)	科長	中川 直樹	NAKAGAWA Naoki
内科(内分泌・代謝・膠原病)	科長	野本 博司	NOMOTO Hiroshi
内科(消化器)	科長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
内科(血液)			
精神科神経科	科長	橋岡 禎征	HASHIOKA Sadayuki
小児科	科長	高橋 悟	TAKAHASHI Satoru
外科(血管・呼吸・腫瘍)	科長	東 信良	AZUMA Nobuyoshi
外科(心臓大血管)	科長	紙谷 寛之	KAMIYA Hiroyuki
外科(肝胆膵・移植)	科長	横尾 英樹	YOKOO Hideki
外科(消化管)			
整形外科	科長	伊藤 浩	ITO Hiroshi
皮膚科	科長	藤田 靖幸	FUJITA Yasuyuki
泌尿器科	科長	沼倉 一幸	NUMAKURA Kazuyuki
眼科	科長	長岡 泰司	NAGAOKA Tajji
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	高原 幹	TAKAHARA Miki
産科婦人科	科長	加藤 育民	KATO Yasuhito
放射線科	科長	沖崎 貴琢	OKIZAKI Atsutaka
麻酔科蘇生科	科長	牧野 洋	MAKINO Hiroshi
脳神経外科	科長	木下 学	KINOSHITA Manabu
歯科口腔外科			
救急科	科長	岡田 基	OKADA Motoi
リハビリテーション科	科長	大田 哲生	OTA Tetsuo
病理診断科	科長	谷野 美智枝	TANINO Mishie
形成外科	科長	林 利彦	HAYASHI Toshihiko
中央診療施設等			
臨床検査・輸血部	部長	坂本 央	SAKAMOTO Naka
手術部			
放射線部	部長	沖崎 貴琢	OKIZAKI Atsutaka
材料部	部長	大田 哲生	OTA Tetsuo
病理部	部長	谷野 美智枝	TANINO Mishie
救命救急センター	センター長	岡田 基	OKADA Motoi
集中治療部	部長	小北 直宏	KOKITA Naohiro
総合診療部	部長	野津 司	NOZU Tsukasa
周産母子センター	センター長	長屋 建	NAGAYA Ken
経営企画部	部長	沖崎 貴琢	OKIZAKI Atsutaka
卒後臨床研修センター	センター長	牧野 雄一	MAKINO Yuichi
遠隔医療センター	センター長	岡田 基	OKADA Motoi

臨床研究支援センター	センター長	松本 成史	MATSUMOTO Seiji
地域医療総合センター	センター長	大田 哲生	OTA Tetsuo
リハビリテーション部	部長	大田 哲生	OTA Tetsuo
患者総合サポートセンター	センター長	大田 哲生	OTA Tetsuo
臨床工学室	室長	林 達哉	HAYASHI Tatsuya
遺伝子診療カウンセリング室	室長	蒔田 芳男	MAKITA Yoshio
光学医療診療部	部長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
外来化学療法センター	センター長	田邊 裕貴	TANABE Hiroki
腫瘍センター	センター長	田邊 裕貴	TANABE Hiroki
緩和ケア診療部	部長	牧野 洋	MAKINO Hiroshi
栄養管理部	部長	藤谷 幹浩	FUJIYA Mikihiro
肝疾患相談支援室	室長	澤田 康司	SAWADA Koji
乳腺疾患センター	センター長	北田 正博	KITADA Masahiro
透析センター	センター長	中川 直樹	NAKAGAWA Naoki
超音波画像診断センター	センター長	齊藤 江里香	SAITO Erika
専門医育成・管理センター	センター長	佐藤 伸之	SATO Nobuyuki
高難度医療管理センター	センター長	紙谷 寛之	KAMIYA Hiroyuki
がん遺伝子診療部	部長	田邊 裕貴	TANABE Hiroki
脳卒中センター	センター長	木下 学	KINOSHITA Manabu
医療安全管理部	部長	林 達哉	HAYASHI Tatsuya
感染制御部	部長	高原 幹	TAKAHARA Miki
薬剤部	部長	田崎 嘉一	TASAKI Yoshikazu
看護部	部長	井戸川 みどり	IDOGAWA Midori
診療技術部	部長	宗万 孝次	SOMAN Koji

事務局

事務局長	吉原 秀昭	YOSHIHARA Hideaki
事務局次長(総務・教務)	成田 憲隆	NARITA Noritaka
総務課特任課長	長谷川 和宏	HASEGAWA Kazuhiro
人事課長	佐藤 美喜子	SATO Mikiko
会計課長	木村 勉	KIMURA Tsutomu
研究・学術情報課長	磯本 善男	ISOMOTO Yoshio
施設課長	尾崎 直	OZAKI Sunao
学生支援課長	小澤 雅	OZAWA Masami
入試課長	千日坂 和彦	SENNICHIZAKA Kazuhiko
事務局次長(病院)	郡 英男	KOORI Hideo
経営企画課長	石坂 貴光	ISHIZAKA Takamitsu
医療支援課長	見上 直樹	MIKAMI Naoki
医事課長	小島 清志	KOJIMA Kiyoshi

法人役員数

令和7年5月1日現在

学長	理事	監事	合計
1	4(2)	2(1)	7(3)

※()内は非常勤役員で内数。

大学職員数

令和7年5月1日現在

区分	学長	副学長	教員					計	一般職 (事務・技術職員)	一般職 (技能・労務職員)	医療技術職員	看護職員	合計
			教授	准教授	講師	助教							
学長・副学長	1	6(4)											7(4)
医学部	講座		39	27	21	75	162	4					166
	学科目		7	5	1	4	17						17
病院			5	9	28	86	128	1	3	205	732		1,069
室・センター等			5	3	5	5	18	8			2		28
監査室								2					2
事務局	事務局長							1					1
	職員							160					160
計	1	6(4)	56	44	55	170	325	176	3	205	734		1,450(4)

※法人役員(学長、副学長)を含む。※()内は教授と兼務で内数。

寄附講座教員数

令和7年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
人工関節講座		(1)		(1)	1	1(2)
頭頸部癌先端の診断・治療学講座				(1)		(2)
心腎先端医療開発講座		(1)			(1)	(2)
消化器疾患病態学講座		(1)		(1)	1	1(2)
女性活躍・地域活性推進外科学講座		(1)			1	1(1)
地域連携医学講座		(1)		(1)	1	1(2)
予防医学講座		(1)	(1)		1	1(2)
眼科地域医療創生講座		1	(1)			1(1)
地域小児医療支援講座		(1)			1	1(1)
包括の高度慢性下肢虚血研究講座		(1)			1	1(1)
消化器診療連携講座		(1)		(1)		(2)
地域支援・専門医育成講座		(1)			1	1(1)
消化器内視鏡医学講座		(1)				(1)
地域眼科医療支援技術開発講座		(1)			(1)	(2)
計		1(12)	(3)	(5)	8(2)	9(22)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

共同研究講座教員数

令和7年5月1日現在

区分	教授	特任教授	特任准教授	特任講師	特任助教	合計
消化器先端医学講座		(1)		1		1(1)
先進ゲノム地域医療講座		(1)	(1)		1	1(2)
計		(2)	(1)	1	1	2(3)

※()内は臨床講座教員と兼務で外数。

歴代学長

初代学長	山田 守英	YAMADA Morihide	[昭和48年 7月29日 - 昭和56年 6月30日]
第二代学長	黒田 一秀	KURODA Kazuhide	[昭和56年 7月 1日 - 昭和62年 6月30日]
第三代学長	下田 晶久	SHIMODA Akihisa	[昭和62年 7月 1日 - 平成 3年 6月30日]
第四代学長	清水 哲也	SHIMIZU Tetsuya	[平成 3年 7月 1日 - 平成 9年 6月30日]
第五代学長	久保 良彦	KUBO Yoshihiko	[平成 9年 7月 1日 - 平成15年 6月30日]
第六代学長	八竹 直	YACHIKU Sunao	[平成15年 7月 1日 - 平成19年 6月30日]
第七代学長	吉田 晃敏	YOSHIDA Akitoshi	[平成19年 7月 1日 - 令和 4年 3月 3日]
第八代学長	西川 祐司	NISHIKAWA Yuji	[令和 4年 4月 1日 -]

講座及び学科目等

医学部

医学科 [27 講座]		看護学科
基礎医学 [9 講座]		[1 講座]
<ul style="list-style-type: none"> ●解剖学講座 機能形態学分野 顕微解剖学分野 ●生理学講座 自律機能分野 神経機能分野 ●生化学講座 ●薬理学講座 ●病理学講座 腫瘍病理分野 免疫病理分野 ●感染症学講座 微生物学分野 寄生虫学分野 ●社会医学講座 ●法医学講座 ●先端医科学講座 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学講座 	
臨床医学 [18 講座]		一般教育 [11 学科目]
<ul style="list-style-type: none"> ●内科学講座 循環器・腎臓内科学分野 呼吸器・脳神経内科学分野 内分泌・代謝・膠原病内科学分野 消化器内科学分野 血液内科学分野 ●精神医学講座 ●小児科学講座 ●外科学講座 血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 心臓大血管外科学分野 肝胆膵・移植外科学分野 消化管外科学分野 ●整形外科科学講座 ●皮膚科学講座 ●腎泌尿器外科学講座 ●眼科学講座 ●耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 ●産婦人科学講座 ●放射線医学講座 ●麻酔・蘇生学講座 ●脳神経外科学講座 ●歯科口腔外科学講座 ●救急医学講座 ●地域医療教育学講座 ●地域がん診療連携講座 ●形成・再建外科学講座 	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史・哲学 ●心理学 ●社会学 ●数学 ●数理情報科学 ●物理学 ●化学 ●生物学 ●生命科学 ●英語 ●ドイツ語 	
		寄附講座 [14 講座]
		<ul style="list-style-type: none"> ●人工関節講座 ●頭頸部癌先端的診断・治療学講座 ●心腎先端医療開発講座 ●消化器疾患病態学講座 ●女性活躍・地域活性推進外科学講座 ●地域連携医学講座 ●予防医学講座 ●眼科地域医療創生講座 ●地域小児医療支援講座 ●包括的高度慢性下肢虚血研究講座 ●消化器診療連携講座 ●地域支援・専門医育成講座 ●消化器内視鏡医学講座 ●地域眼科医療支援技術開発講座
		共同研究講座 [2 講座]
		<ul style="list-style-type: none"> ●消化器先端医学講座 ●先進ゲノム地域医療講座

大学院

医学系研究科				
課程	専攻	コース名	領域名	
博士課程	医学	研究者コース	腫瘍・血液病態学、社会・環境医学、免疫・感染症病態学、感覚器・運動器病態学、内分泌・代謝病態学、神経・精神医学、循環器・呼吸器病態学、消化器病態学、分子生理・薬理学、生殖・発達・再生医学	
		臨床研究者コース	臨床腫瘍・血液学、臨床環境・社会医学、臨床免疫・感染症学、臨床感覚器・運動器学、臨床内分泌・代謝学、臨床神経・精神医学、臨床循環器・呼吸器学、臨床消化器学、臨床薬理・分子生理学、臨床生殖・発達・再生医学	
		臨床医学コース		
		次世代がんインフォマティクス人材養成コース		
修士課程	看護学	修士論文コース	看護のイノベーションと健康増進分野	成人看護学、健康教育開発学、応用基礎医学
			地域社会の発展・創生分野	高齢者看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、基礎看護学、看護管理学
			発達促進分野	母性看護学、助産学、小児・家族看護学、精神保健看護学
		高度実践コース	がん看護学、高齢者看護学	

学生数等・学年暦

入学志願者数・入学者数

区分	医学科			看護学科		
	募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
令和7年度	総合型選抜	北海道特別選抜	40	127	40	
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜	7	27	7	10
	前期		40	147	40	22
	私費外国人留学生		若干人	1	0	95
	後期		8	232	8	40
	編入(地域枠)		10	131	8	0
令和6年度	総合型選抜	北海道特別選抜	32	125	32	
	学校推薦型選抜	道北・道東特別選抜	10	26	10	10
	前期		40	225	40	29
	私費外国人留学生		若干人	0	0	62
	後期		8	297	8	40
	編入(地域枠)		10(5)	150(37)	6(4)	0

学生数

令和7年5月1日現在

区分	入学定員	現員							
		男	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	計
医学科	105 (2年次編入学定員10を含む)	男	61	50	63	57	71	52	354
		女	40	47	49	43	43	32	254
		計	101	97	112	100	114	84	608
看護学科	60	男	2	8	4	9			23
		女	60	51	55	51			217
		計	62	59	59	60			240

学年暦

○ 学年始	4月 1日
○ 入学式	4月 7日
前期	4月 1日 - 9月30日
○ 夏季休業	7月 7日 - 9月12日
後期	10月 1日 - 3月31日
○ 本学記念日	11月 5日
○ スチューデントナース認定式(看護学科)	11月 7日
○ 冬季休業	12月 8日 - 1月16日
○ 白衣式(医学科)	12月 17日
○ 春季休業	2月 27日 - 4月 3日
○ 学士・修士・博士学位記授与式	3月 25日
○ 学年終	3月 31日



白衣式

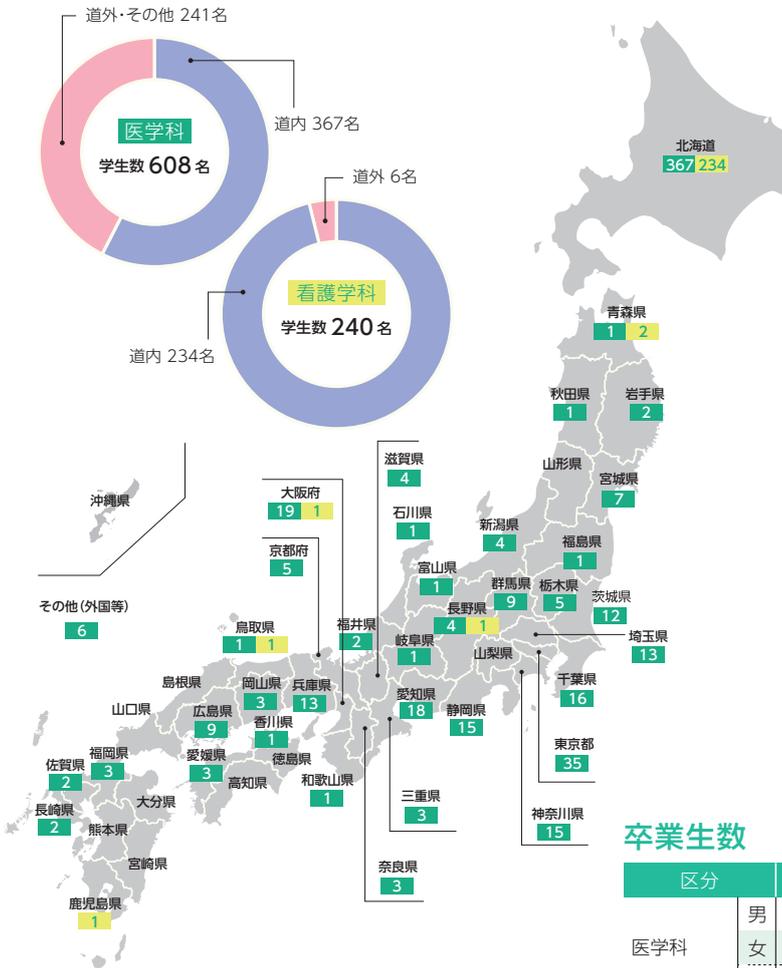


学位記授与式

※長期休業期間は学科・学年によって異なります。

出身高校都道府県別学生数一覧 令和7年4月1日現在

■ 医学科(名) ■ 看護学科(名)



関連教育病院等

市立旭川病院

- 診療科 / 25 ● 病床数 / 481
- 臨床実習学生受入数延べ / 40人

旭川赤十字病院

- 診療科 / 29 ● 病床数 / 520
- 臨床実習学生受入数延べ / 41人

JA北海道厚生連旭川厚生病院

- 診療科 / 24 ● 病床数 / 406
- 臨床実習学生受入数延べ / 87人

国立病院機構旭川医療センター

- 診療科 / 19 ● 病床数 / 310
- 臨床実習学生受入数延べ / 20人

旭川圭泉会病院

- 診療科 / 5 ● 病床数 / 399
- 臨床実習学生受入数延べ / 0人

奨学生数

令和6年度実績

区分	学科・課程	本学独自の奨学金	日本学生支援機構奨学金		その他の自治体等奨学金
			給付型	貸与型	
医学部	医学科	2	42	157	47
	看護学科	55	27	87	-
大学院	博士課程	0	-	0	-
	修士課程	0	-	0	-

(延べ人数)

【本学独自の奨学金】

- 医学科学生に対する奨学資金(2011年4月創設)
- 看護学科学生に対する奨学資金(2008年4月創設)
- 大学院学生に対する奨学金(2008年4月創設)

【その他の自治体等奨学金】

- 北海道医師養成確保修学資金
- 富良野市医師養成確保修学資金
- 深川市医師養成修学資金
- 遠軽町旭川医科大学医師養成確保修学資金

※上記は本学が貸与の指定校のもの

【その他の本学学費等支援制度】

- 授業料減免制度
- 授業料特別貸与制度(2011年4月創設)
- 学部学生海外留学助成制度(2010年5月創設)
- 卒業生に対する奨学資金貸与制度(2011年4月創設)
- 初期臨床研修医に対する奨学金(2012年4月創設)

卒業生数

区分		～令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計
医学科	男	3,497	75	94	65	3,731
	女	1,124	47	39	49	1,259
	計	4,621	122	133	114	4,990
看護学科	男	105	6	3	2	116
	女	1,393	55	58	57	1,563
	計	1,498	61	61	59	1,679
合計		6,119	183	194	173	6,669

国家試験合格者数

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度
医師	受験者数	134	150	128
	合格者数	117	134	119
	合格率(%)	87.3	89.3	93.0
保健師	受験者数	10	7	9
	合格者数	10	7	9
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
助産師	受験者数	6	3	6
	合格者数	6	3	6
	合格率(%)	100.0	100.0	100.0
看護師	受験者数	61	62	59
	合格者数	60	62	59
	合格率(%)	98.4	100.0	100.0

(※既卒者含む)

大学院医学系研究科定員・現員

令和7年5月1日現在

専攻	性別	入学定員	収容定員	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計
				10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	10月入学	4月入学	
博士課程	男	15	60	3	5	3	9	1	11	9	18	59
	女			1	6	0	2	0	5	1	7	22
	計			4	11	3	11	1	16	10	25	81
修士課程	男	16	32	0		2						2
	女			9		13						22
	計			9		15						24

大学院 10月入学の導入

大学院博士課程において、国際化の進展を図るとともに、職業を有しながら学位取得を目指す方の修学機会の多様化を推進するため、留学生、社会人を対象とした10月入学制度を、平成24年度から導入しています。

学位授与者数

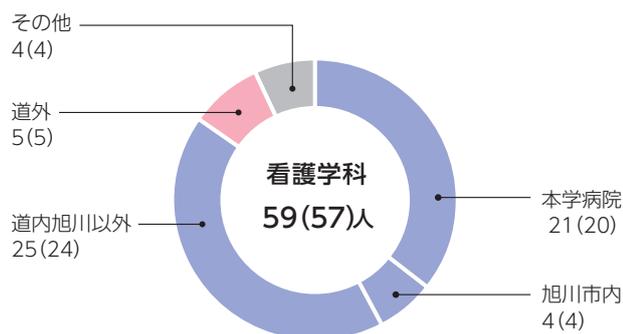
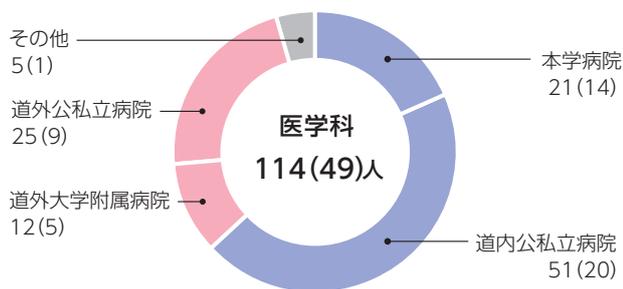
令和7年5月1日現在

区分		～令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計	
博士(医学)	課程博士	男	486	9	9	7	511
		女	91	4	3	1	99
		計	577	13	12	8	610
	論文博士	男	451	5	5	5	466
		女	41	0	3	0	44
		計	492	5	8	5	510
合計		1,069	18	20	13	1,117	
修士(看護学)	男	33	5	1	6	45	
	女	202	7	4	3	216	
	計	235	12	5	9	261	

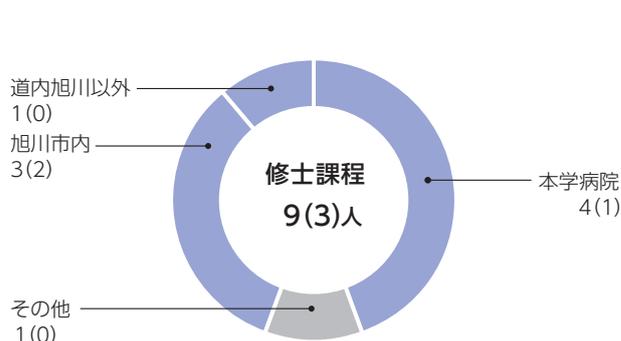
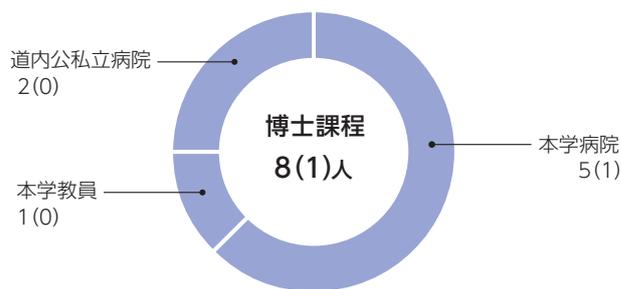
令和6年度卒業生の進路

■ 北海道内 ■ 北海道外 ■ その他 ※()は内数で女子を示す。

医学部



大学院



研究領域等

医学科 / 基礎医学

講座名		主要研究領域
解剖学講座	機能形態学分野	神経解剖学、神経病理学
	顕微解剖学分野	細胞生物学、実験内分泌学、分泌顆粒形成機構の分子細胞生物学的解析
生理学講座	自律機能分野	心臓統合生理学、心臓メカニクスとメカノバイオロジー
	神経機能分野	神経科学
生化学講座		血管新生、神経再生、骨格筋再生、再生医学、細胞カルシウム代謝調節、蛋白質磷酸化による細胞機能の制御、血管平滑筋の収縮制御
薬理学講座		分子腫瘍学、分子薬理学、酸素生物学
病理学講座	腫瘍病理分野	分子病理学、腫瘍病理学、探索病理学
	免疫病理分野	腫瘍免疫学、アレルギー学、免疫学、腫瘍生物学
感染症学講座	微生物学分野	微生物学、免疫学
	寄生虫学分野	エキノコックス症、有鉤虫症分子生物学、免疫生物学、分子・免疫診断学、分子・免疫疫学、トキソプラズマ症、免疫寄生虫学、遺伝子工学、細胞生物学、ベクターバイオロジー
社会医学講座		公衆衛生学、衛生学、疫学、臨床疫学、産業保健、精神保健、国際保健
法医学講座		法医毒性学、個人識別とDNA多型
先端医科学講座		神経科学、分子生物学、ゲノム編集・エピゲノム編集、再生医学、橋渡し研究

医学科 / 臨床医学

講座名		主要研究領域
内科学講座	循環器・腎臓内科学分野	内科学、循環器学、高血圧学、腎臓学、老年医学
	呼吸器・脳神経内科学分野	内科学、呼吸器学、神経内科学、腫瘍学
	内分泌・代謝・膠原病内科学分野	内科学、糖尿病・代謝学、内分泌学、膠原病学
	消化器内科学分野	内科学、消化器病学、消化器内視鏡学
	血液内科学分野	内科学、血液病学、造血細胞移植学
精神医学講座		一般精神医学、生物学的精神医学、老年精神医学、認知症学
小児科学講座		小児感染免疫学、小児内分泌学・代謝学、小児神経学、小児血液・腫瘍学、小児循環器病学、新生児学、小児腎臓病学、てんかん学、小児消化器病学
外科学講座	血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野	血管外科、血管内治療外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科
	心臓大血管外科学分野	心臓外科、胸部大動脈外科
	肝胆膵・移植外科学分野	消化器外科 [肝・胆・膵外科]、内視鏡外科、移植外科、一般外科、ロボット外科
	消化管外科学分野	消化管外科 [上部消化管 (食道・胃)・下部消化管 (小腸・大腸) 外科]、内視鏡外科、ロボット外科、一般外科
整形外科科学講座		関節外科、人工関節外科、骨軟部腫瘍の診断と治療、脊椎・脊髄外科、スポーツ整形外科、リウマチの外科、手の外科、骨粗鬆症、再生医療
皮膚科学講座		皮膚科学、乾癬、角化異常症、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌学、皮膚腫瘍学、皮膚アレルギー学、皮膚膠原病学、美容皮膚科学、水疱症、皮膚病理組織学
腎泌尿器外科学講座		腎・尿路性器悪性腫瘍、癌化学療法、小児泌尿器科、女性泌尿器科、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石症、副腎外科、内視鏡外科、ロボット支援手術
眼科学講座		眼科学、網膜硝子体疾患、角膜移植、眼表面疾患、屈折矯正手術、網膜神経保護、眼微小循環、緑内障、眼底画像解析、ロービジョン、斜視、眼炎症疾患、神経眼科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座		耳科、平衡神経科、鼻科、口咽頭科、喉頭科、頭頸部外科、気管食道科
産婦人科学講座		周産期医学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学・不妊症、女性医学
放射線医学講座		放射線診断学、放射線腫瘍学、核医学、インターベンショナルラジオロジー
麻酔・蘇生学講座		静脈麻酔薬の薬物動態、神経障害性疼痛のメカニズムと治療、周術期の血液凝固、心臓血管麻酔、経食道心エコー、気道管理、末梢神経ブロック、筋弛緩薬
脳神経外科学講座		脳神経外科、脳腫瘍、頭蓋底外科、脳血管外科、機能脳神経外科、脳血管内手術、てんかん外科、小児脳神経外科、脊椎・脊髄外科
歯科口腔外科学講座		口腔癌、口腔粘膜疾患、人工歯根、顎変形症、口唇裂・口蓋裂、口腔感染症、口臭、顎関節疾患、口腔ケア、口腔顔面外傷、小児口腔外科、咀嚼障害、口腔顔面痛
救急医学講座		外傷学、中毒学、呼吸循環補助、心肺蘇生、敗血症、環境障害、災害医療、終末期医療

講座名	主要研究領域
地域医療教育学講座	地域医療、専門医とプライマリ・ケア
形成・再建外科学講座	再建外科学、創傷外科学、頭蓋顎顔面外科学、皮膚腫瘍学

看護学科

講座名	主要研究領域
看護学講座	専門基礎医学、健康教育開発学 基礎看護学、成人看護学、高齢者看護学、小児看護学、母性看護学・助産学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学、看護管理学、がん看護学

一般教育

学科目名	主要研究領域
心理学	実験心理学、認知神経科学、臨床発達心理学
社会学	医療社会学
数学	解析学、非線形分散型偏微分方程式
数理情報科学	医用生体工学、運動生理学、フラクタル生理学、循環生理学、微小循環学、認知科学、医学統計学
物理学	固体物理学、銅酸化物高温超伝導体、低次元導体、量子測定理論
化学	物理化学、ソフトマター、表面化学、非線形科学、バイオミメティクス
生物学	生殖生物学、染色体科学（配偶子、胚）
生命科学	分子細胞生物学、加齢・老化
英語	理論言語学、応用言語学、英語教育学

センター等

施設名	主要研究領域・業務内容	
保健管理センター	健康管理、青年期生活習慣病予防、感染予防、メンタルケア	
国際交流推進センター	教育・研究、技術協力等の国際交流を推進	
入学センター	入学者選抜に関する企画・実施・調査および評価	
教育センター	医学看護学教育	
先進医工学研究センター	医工学（人工臓器学、再生医工学、組織工学、治療医工学、計測診断医工学）	
地域共生医育センター	地域と共生する一貫医学教育、地域医療支援、マルチタスク型地域医療医育成	
インスティテューショナル・リサーチ室	機関研究（教学、研究・社会貢献IR）	
研究推進本部	臨床研究計画の策定および実施体制の相談・コンサルテーション、薬事申請の支援、研究者教育や研究シーズの発掘、知的財産関係や研究者の産学官連携支援	
知的財産センター	研究成果から生じる知的財産の取得・管理・活用等の支援	
動物実験施設	動物の実験、飼養保管、繁殖、生殖工学	
実験実習機器センター	組織学的解析、生化学・分子生物学的解析	
放射性同位元素研究施設	放射性同位元素等を用いた研究	
看護職 キャリア 支援センター	教育プログラム開発部門	看護教育プログラムの開発
	生涯学習支援部門	生涯学習及びキャリア形成支援
	人事交流部門	看護学科と看護部および訪問看護ステーションとの人事交流推進
	地域看護職連携部門	地域包括ケアシステムの推進、地域看護職との連携
学内共同 利用施設	情報基盤センター	情報ネットワーク、計算機科学、情報セキュリティ
	復職・子育て・介護支援センター	ワークライフバランス

病院

部署名	主要研究領域・業務内容
リハビリテーション科	リハビリテーション医学、運動学、計算論的神経科学、電気生理学、物理療法学、装具学
病理診断科	診断病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学、デジタルパソロジー
光学医療診療部	消化器内視鏡、呼吸器内視鏡、治療内視鏡
腫瘍センター	がん相談支援、院内がん登録
緩和ケア診療部	緩和医療学、医療哲学、医療倫理、アドバンス・ケア・プランニング
乳腺疾患センター	乳腺疾患学、臨床腫瘍学、遺伝性乳癌
臨床検査・輸血部	臨床検査医学、輸血医学、臨床電気生理学、感染制御支援、生体情報処理、生理検査、自己血輸血
手術部	手術医学、安全管理、周術期ケア
放射線部	放射線診断学、放射線治療学、放射線防護、放射線物理学、放射線技術学、核医学、画像下治療
材料部	医療機器の洗浄、滅菌、供給、医療材料の管理
病理部	診断病理学、腫瘍病理学、腫瘍免疫、分子病理学、細胞診断学
救命救急センター	救急医学、心肺蘇生、中毒、外傷、敗血症
集中治療部	集中治療医学、循環呼吸調節、血液浄化法
総合診療部	非臓器別総合内科学
周産母子センター	周産期医学、産科学、新生児学、周産期感染症学、小児外科学
経営企画部	病院経営分析・管理、病院情報システム、遠隔医療、医療情報ネットワーク、情報セキュリティ
卒後臨床研修センター	臨床研修プログラムの整備並びに実施管理、臨床研修支援
遠隔医療センター	遠隔医療、クラウドシステム
臨床研究支援センター	治験（医師主導治験を含む）支援、臨床研究支援、患者申出療養
リハビリテーション部	理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学、リハビリテーション医学、運動学、生体工学
患者総合サポートセンター	外来診療等の予約、退院支援、継続看護、地域医療機関や市町村などの相互連携の窓口となり患者さんの療養生活の向上を支援、入退院管理、患者支援、ベッドコントロール
臨床工学室	臨床工学、医用工学
遺伝子診療カウンセリング室	遺伝子診断、遺伝カウンセリング、出生前診断、発症前診断
肝疾患相談支援室	肝疾患相談
外来化学療法センター	外来化学療法
栄養管理部	臨床栄養学、栄養管理
透析センター	血液透析、血液濾過透析、腹膜透析、アフエレス
超音波画像診断センター	超音波医学
専門医育成・管理センター	専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査、セミナーの開催
高難度医療管理センター	高難度新規医療技術等
がん遺伝子診療部	がん遺伝子パネル検査（包括的がんゲノムプロファイリング検査）
脳卒中センター	脳卒中学、神経科学、神経外科学、脳血管内治療学
医療安全管理部	インシデントレポートの原因分析と検証、医療事故防止対策の検討及び推進
感染制御部	感染制御
薬剤部	臨床薬剤学、臨床薬理学、医療薬学、神経科学
看護部	急性期看護、慢性期看護、精神看護、看護管理、看護教育、ヘルスプロモーション

旭川医科大学病院

旭川医科大学病院

基本理念

患者中心の医療を実践し、地域医療に寄与するとともに、国際的に活躍できる医療人を育成する。

目標

- 1 人権や尊厳を思い遣る患者中心の医療を行う。
- 2 安心・安全を心がける中で、高度な医療を提供する。
- 3 予防・健康医学に取り組み、地域医療や福祉の向上に貢献する。
- 4 倫理観にあふれ国際感覚に富んだ医療人を育成する。
- 5 未来の医療を創造し、その成果を国内外に発信する。

機関別認証評価

旭川医科大学病院は次の認証を受けています。

病院機能評価 [公益財団法人 日本医療機能評価機構]

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が適切に実施されているかを、所定の評価項目に沿って、評価調査者(サーベイヤー)から中立・公平な立場で評価されたものです。



赤ちゃんにやさしい病院

平成17年8月に、「母乳育児成功のための10カ条」(WHO・ユニセフによる共同声明)を実践する施設等に対する「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」の認定をWHO・ユニセフから受けました。道内では3番目、国立大学病院では全国で初めての認定病院となりました。

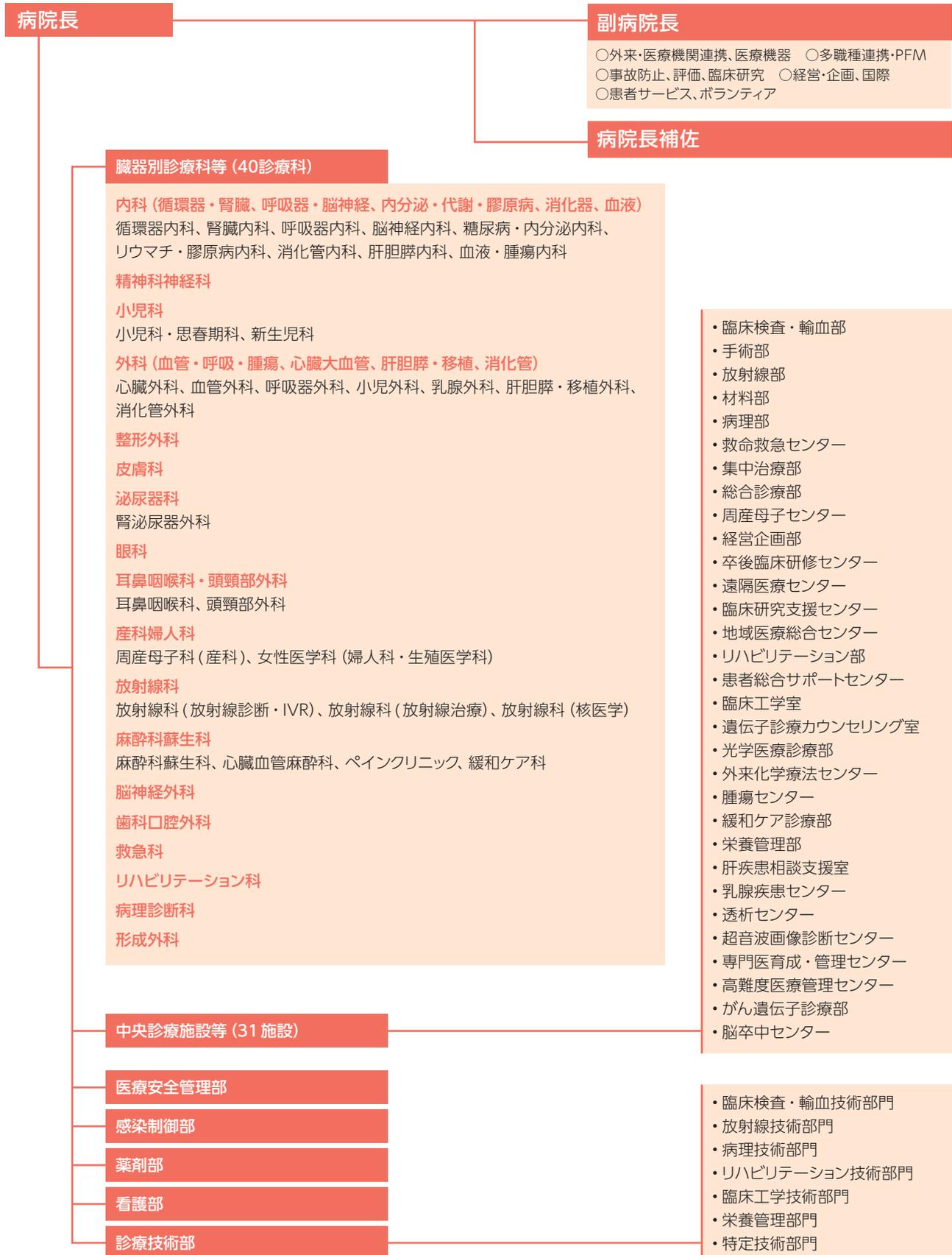


医療機関の主な指定状況等

法令等による指定の名称	指定(更新)の年月
医療法による開設許可(承認)	昭和51年
特定機能病院	平成6年10月
エイズ診療ブロック拠点病院	平成9年4月
DPC対象病院	平成15年6月
災害派遣医療チーム(DMAT)指定医療機関	平成19年9月
肝疾患診療連携拠点病院	平成21年8月
道北ドクターヘリ協力基幹病院	平成21年10月
救命救急センター	平成22年10月
地域周産期母子医療センター	平成23年3月
災害拠点病院(地域)	平成23年11月
赤ちゃんにやさしい病院	平成30年7月
がんゲノム医療連携病院	平成30年10月
病院機能評価3rdG:ver.2.0	令和2年3月
特定行為研修指定研修機関	令和3年8月
北海道高度がん診療中核病院	令和5年3月
赤ちゃんにやさしいNICU	令和5年8月
地域がん診療連携拠点病院	令和6年3月



組織機構図



診療科等配置図

令和7年7月1日現在

病床数	東病棟	西病棟	病床数
45	○脳神経外科 ○救命救急センター ○放射線科(放射線診断・IVR) ○放射線科(放射線治療) ○放射線科(核医学)・RI	10F ○精神科神経科	31
44	○呼吸循環器センター(血管外科/呼吸器外科) ○高度治療室(HCU) ○乳腺疾患センター(乳腺外科)	9F ○呼吸循環器センター (循環器内科/腎臓内科/心臓外科)	44
38	○眼科 ○ペインクリニック ○脳神経内科 ○糖尿病・内分泌内科	8F ○整形外科	44
		7F ○泌尿器外科 ○皮膚科 ○形成外科	44
44	○消化器センター(肝胆臓・移植外科/消化管外科) ○リマウチ・膠原病内科	6F ○消化器センター(消化器内科)	45
44	○乳腺疾患センター(乳腺外科) ○女性医学科(婦人科・生殖医学科) ○緩和ケア科 ○歯科口腔外科 ○呼吸器内科	5F ○血液・腫瘍内科 ○頭頸部外科センター(耳鼻咽喉科/頭頸部外科) ○呼吸器内科	44
37	○周産母子センター(周産母子科/NICU/GCU/新生児科) ○女性医学科(婦人科・生殖医学科)	4F ○小児総合診療センター(小児科・思春期科/小児外科)	44
外来棟	3F [31番受付] 整形外科/泌尿器外科 [32番受付] 皮膚科 [33番受付] 周産母子科(産科)・女性医学科(婦人科・生殖医学科)/ 放射線科(放射線診断・IVR)・放射線科(放射線治療)・放射線科(核医学) ○二輪草センター ○透析センター	○ICU	10
	2F [21番受付] 消化器内科/肝胆臓・移植外科/消化管外科/呼吸器外科/乳腺外科/小児外科 [22番受付] 循環器内科/腎臓内科/呼吸器内科/脳神経内科/心臓外科/血管外科 [23番受付] 糖尿病・内分泌内科/リウマチ・膠原病内科/血液・腫瘍内科/外来化学療法センター ○患者総合サポートセンター		
	1F [10番受付] 耳鼻咽喉科/頭頸部外科/麻酔科蘇生科/心臓血管麻酔科/ペインクリニック/緩和ケア科 [11番受付] 眼科 [12番受付] 小児科・思春期科/新生児科/リハビリテーション科 [13番受付] 脳神経外科/精神科神経科/形成外科 [14番受付] 歯科口腔外科 [15番受付] 総合診療部/救命救急センター		

病床数 計 558

※許可病床数602床

診療実績 [令和6年度]

患者数

区分	人数
外来患者延数	340,303
1日平均外来患者数	1,400
入院患者延数	169,042
新規登録患者数	7,386
開院以来 [※] の新規登録患者数	450,795

※昭和51年11月1日～令和7年3月31日

道内振興局別入院患者数・外来患者延数

区分	入院患者数	外来患者延数
旭川市	86,546	216,558
空知	11,989	18,320
石狩	1,132	1,466
後志	103	54
胆振	58	129
日高	116	113
渡島	55	41
檜山	14	26
上川	39,648	75,088
留萌	5,002	7,674
宗谷	7,627	7,143
オホーツク	14,617	11,918
十勝	804	690
釧路	379	253
根室	57	136
道外	895	694
計	169,042	340,303



紹介割合・逆紹介割合

紹介割合	逆紹介割合
101.5%	45.8%

診療実績 [令和6年度]

退院患者統計

世界保健機関 (WHO) が定める国際疾病分類 (ICD-10) ※に準じて分類

ICD-10分類	件数	率
I 感染症および寄生虫症 (A00-B99)	156	1.03%
II 新生物 (C00-D48)	5,429	35.85%
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 (D50-D89)	95	0.63%
IV 内分泌、栄養および代謝疾患 (E00-E90)	364	2.40%
V 精神および行動の障害 (F00-F99)	58	0.38%
VI 神経系の疾患 (G00-G99)	381	2.52%
VII 眼および付属器の疾患 (H00-H59)	1,332	8.80%
VIII 耳および乳様突起の疾患 (H60-H95)	56	0.37%
IX 循環器系の疾患 (I00-I99)	2,018	13.33%
X 呼吸器系の疾患 (J00-J99)	497	3.28%
XI 消化器系の疾患 (K00-K93)	1,375	9.08%
XII 皮膚および皮下組織の疾患 (L00-L99)	204	1.35%
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	1,047	6.91%
XIV 腎尿路生殖器系の疾患 (N00-N99)	534	3.53%
XV 妊娠、分娩および産後 (O00-O99)	354	2.34%
XVI 周産期に発生した病態 (P00-P96)	225	1.49%
XVII 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)	277	1.83%
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)	22	0.15%
XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	645	4.26%
XX 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 (Z00-Z99)	9	0.06%
XXI 特殊目的用コード (U00-U89)	64	0.42%
計	15,142	100%

※国際疾病分類=疾病及び関連保健問題の国際統計分類

臨床検査件数

区分	入院 (件)	外来 (件)	計 (件)
一般検査	30,445	128,357	158,802
血液学的検査	133,799	210,148	343,947
生化学的検査	900,719	1,909,929	2,810,648
免疫学的検査	103,580	247,940	351,520
内分泌学的検査	14,980	60,560	75,540
微生物学的検査	10,439	4,385	14,824
病理学的検査	1,208	3,655	4,863
生理機能検査	80,603	73,708	154,311
その他検体検査	428	134	562
採血・採液等	1,381	78,753	80,134
内視鏡検査	861	3,970	4,831
分類コード未記載	0	20	20
その他各科特有のもの	0	0	0
計	1,278,443	2,721,559	4,000,002

救急患者件数

区分	初診 (人)	再診 (人)	計 (人)
循環器内科	21	186	207
腎臓内科	0	7	7
呼吸器内科	0	89	89
脳神経内科	7	52	59
糖尿病・内分泌内科	1	9	10
リウマチ・膠原病内科	0	34	34
血液・腫瘍内科	1	65	66
消化器内科	22	279	301
精神科神経科	0	11	11
小児科・思春期科	15	169	184
新生児科	11	8	19
心臓外科	50	63	113
血管外科	14	42	56
呼吸器外科	1	7	8
乳腺外科	0	46	46
小児外科	5	16	21
肝胆膵・移植外科	2	31	33
消化管外科	13	50	63
整形外科	44	143	187
皮膚科	23	47	70
腎泌尿器外科	22	70	92
眼科	31	43	74
耳鼻咽喉科	106	140	246
頭頸部外科	0	1	1
周産母子科 (産科)	13	99	112
女性医学科 (婦人科・生殖医学科)	10	67	77
緩和ケア科	0	1	1
脳神経外科	82	207	289
歯科口腔外科	12	44	56
救急科	386	1,444	1,830
形成外科	14	37	51
計	906	3,507	4,413

手術件数

点数	件数
0~999	1,615
1,000~2,999	1,775
3,000~4,999	1,288
5,000~9,999	1,501
10,000~14,999	1,837
15,000~19,999	892
20,000~	5,171
計	14,079
うち手術部で実施分	7,579

※手術件数は、外来実績を含む。

分娩件数

区分	成熟児	未熟児	計
正常分娩	136	16	152
異常分娩	86	33	119
計	222	49	271

リハビリテーション部

区分	件数
理学療法	50,834
作業療法	19,566
言語療法	9,415
計	79,815
実患者数	6,754人

集中治療部

診療科別入室患者数

区分	患者数
循環器内科	59
腎臓内科	2
呼吸器内科	3
脳神経内科	5
糖尿病内分泌内科	1
リウマチ膠原病内科	0
消化器内科	12
血液腫瘍内科	2
小児科思春期科	6
新生児科	0
心臓外科	247
血管外科	65
呼吸器外科	1
小児外科	9
乳腺外科	2
肝胆脾移植外科	146
消化管外科	59
整形外科	22
皮膚科	1
泌尿器外科	14
眼科	0
耳鼻咽喉科	6
頭頸部外科	1
周産母子科	3
女性医学科	7
放射線科	0
麻酔科蘇生科	0
脳神経外科	135
歯科口腔外科	2
救急科	50
リハビリテーション科	0
病理診断科	0
形成外科	7
計	867

X線撮影等人数

区分	X線撮影(人)	X線透視(人)	X線CT(人)	血管造影(人)
入院患者	35,956	2,533	6,906	1,736
外来患者	50,138	1,421	22,260	419
計	86,094	3,954	29,166	2,155

放射線治療等人数

区分	放射線治療(人)	治療計画(人)	核医学(人)	MRI(人)
入院患者	3,779	409	638	2,233
外来患者	3,633	295	2,235	7,336
計	7,412	704	2,873	9,569

血液製剤使用数

血液製剤	単位数	バッグ数
赤血球製剤	11,271	5,698
血漿製剤	7,497	3,413
血小板製剤	18,658	1,409
自己血	204.5	121
計	37,630.5	10,641

病理学的検査件数

区分	院内	受託	計
病理組織診検査	6,755	156	6,911
細胞診	4,434	0	4,434
迅速診断	411	0	411
遠隔病理画像診断	0	20	20
計	11,600	176	11,776

処方箋調剤件数

区分	件数
入院処方箋	107,952
外来院内処方箋	7,126
注射処方箋	73,641

注射剤無菌調製件数

区分	件数
抗悪性腫瘍剤	20,968
中心静脈栄養剤	4,981
その他の薬剤	23,570

病棟薬剤業務等件数

区分	件数
病棟薬剤業務	13,585
薬剤管理指導	15,671

病理解剖件数

区分	件数
死亡患者数	351人
病理解剖数*	10件
剖検率	3%
死産児解剖数	1件
受託解剖数	0件

*死産含まない。

麻酔件数

点数	件数
0~999	3,913
1,000~	6,637
計	10,550
神経ブロック	384

図書館

図書館では、図書館をより身近に利用してもらうため、展示や様々なイベントを行っています。(テーマに沿った企画展示、本学関係者による小規模の講演会や各種データベースの説明会など。)

また、図書館をよく知ることのできる「図書館ツアー」の実施や広報誌「Library News」も作成しています。医学や看護学を学ぶ際には欠かせない文献検索の講習会を目的別に開催するなど、研究や学習の支援にも力を入れています。

令和7年3月31日現在

蔵書数[図書]

区分	和書	洋書	合計(冊)
一般教育等	30,309	6,231	36,540
専門教育	基礎医学	19,332	28,334
	臨床医学	28,912	74,165
	看護学	286	9,274
計(冊)	93,552	54,761	148,313

蔵書数[雑誌(種)]

区分	タイトル数
和雑誌	2,595
洋雑誌	1,717
電子ジャーナル	5,119

蔵書数[視聴覚資料]

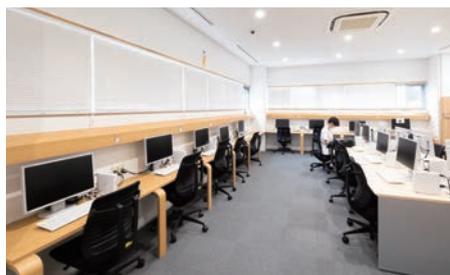
CD	CD-ROM	DVD	LD	ビデオテープ	その他	計
222	72	1,421	72	1,252	238	3,277



ディスカッションスペース



学習室



パソコンコーナー

保健管理センター

保健管理センターは1984年に開設され、これまで学生とともに歩んでまいりました。開設当初から学生が利用しやすいような環境づくりに努め、「敷居の低いセンター」を目指しています。

健康相談関係 [医師・保健師]

利用状況(令和6年度)

月別	健康相談			応急処置	検査	その他
	身体面	精神面	計			
4月	498	62	560	59	132	25
5月	631	94	725	80	76	63
6月	735	113	848	89	41	166
7月	317	66	383	51	16	53
8月	220	34	254	31	15	17
9月	256	83	339	55	23	11
10月	404	75	479	45	22	23
11月	345	95	440	36	37	19
12月	367	47	414	28	32	15
1月	406	26	432	25	49	37
2月	252	27	279	14	20	22
3月	342	8	350	8	71	19
合計	4,773	730	5,503	521	534	470



研究推進本部

本学の研究活動の円滑な推進のための本部で、研究推進部門と知的財産支援部門の2部門で構成されており、それぞれ臨床研究支援センターと知財センターが担当します。特に特殊な知識や経験、関係各所との連携などが必要となる臨床研究やTR(translational research)の推進に注力し、研究者の支援が主な業務になります。具体的には、臨床研究計画の策定および実施体制の相談・コンサルテーション、薬事申請の支援などで、また研究者教育や研究シーズの発掘、知的財産関係や研究者の産学官連携支援などもしていきます。

動物実験施設

動物実験施設は、本学の基礎・臨床研究を支える共同利用施設として、動物実験に関する包括的な支援を行っています。マウス・ラットをはじめ種々の動物を動物福祉に配慮した環境で飼育するとともに、遺伝子改変や系統保存・復元などの生殖工学技術支援、感染症や化学物質を扱う特殊実験インフラを提供しています。また手技サポートを通じて安全かつ倫理的に研究活動が行えるようバックアップしております。研究者の先生方の積極的な利活用をお待ちしております。



動物実験施設 Kurodake (K棟)

実験実習機器センター

実験実習機器センターは、本学の研究・教育を支える中核施設として、大型分析機器の管理・運用を一括して行い、遺伝子解析やメタボローム解析などの専門サービスを提供しています。共焦点レーザー顕微鏡や質量分析装置などの先端機器を備え、ポスター印刷や技術講習も実施しています。学内外に開かれたオープンファシリティとして、高校や企業、その他の機関の皆様にも幅広くご利用いただけます。



放射性同位元素研究施設

放射性同位元素研究施設は本学で唯一、放射性同位元素 (RI) を使用した実験研究が行える施設として1975年に設置されました。RIの使用は法令 (RI法等) 及び学内規程の遵守が基本であり、施設の構造、設備、RIの使用、保管、廃棄の方法、各種の報告の義務など細かく決められています。施設には液体シンチレーションカウンタ、ガンマ線照射装置、ドラフトチャンバなどRI施設専用の機器、設備がありトレーサ実験、照射実験等が行われています。施設を利用するには教育訓練の受講、健康診断の受診等を経て「放射線業務従事者」として登録されると許可されます。



看護職キャリア支援センター

看護職キャリア支援センターでは、看護学生、学内外の看護職、教職員を対象に、いつでも、どこからでもキャリアを磨き、職場を移ってもキャリアを中断させない教育支援体制のもと、地域の保健医療福祉・教育機関との組織横断的な連携・協力を深め、キャリアに関する継続した支援を目指しています。



看護研究・キャリアに関する相談窓口の利用状況

令和6年度

区分	件数
相談	25件

研修、講演会、セミナー等の開催状況

令和6年度

区分	開催件数	延べ参加人数
学内教職員のみ対象	3	学内 68
本学看護学科学生のみ対象	1	学内 16
学外保健師対象	1	学外 136
学内教職員及び学外看護職等対象	8	学内 137、学外 288
合計	13	645



就職に向けた心構えセミナー



実習指導者研修



患者対応に「やさしい日本語」を用いるワークショップ



訪問看護事業所との連携セミナー

専門医・育成管理センター

専門医・育成管理センターは平成30年4月から開始された新専門医制度に対応するため、平成29年に設置されました。本センターでは、専攻医に対する情報提供、連携施設ローテーションの調整、研修状況の調査ならびにセミナーの開催などを行っています。また、新専門医制度に関する様々な相談を受け付けています。今後も入学センター、教育センター、卒後臨床研修センターならびに地域共生医育センターなどと連携し、シームレスなサポートを提供していきます。

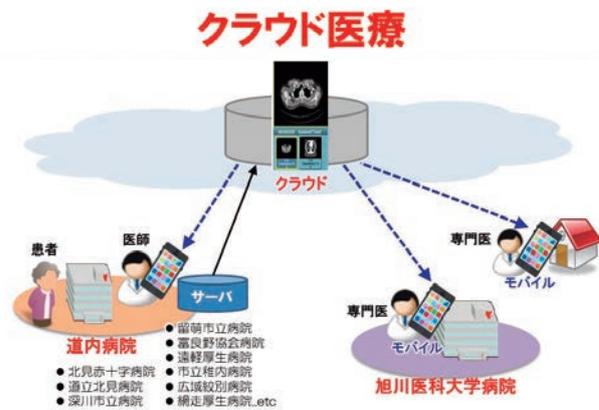
遠隔医療センター

地域間の医療格差を解消

地方の医療過疎化と、それに伴う地域間の医療格差を解消するため、旭川医科大学病院と地域病院を遠隔医療ネットワークで接続し、患者がどこに住んでいても高度な医療が受けられる体制を構築しています。

クラウド型救急医療連携支援事業

2016年10月から、道内病院と「クラウド型救急医療連携支援事業」を行っており、現在では道内13病院以上と連携しています。この事業は、インターネット上のクラウドに送られてきた患者情報を本院の専門医がスマートフォンやタブレット端末で閲覧し、診断や治療方針のアドバイス、本院への救急搬送の必要性有無の判断などを行うもので、心疾患などが発症してから治療開始までの時間が短縮されるなどの効果を得ています。



学内共同利用施設

情報基盤センター

インターネットは世界中につながり、リアルタイムの学術情報を収集できるだけでなく、本学の情報を世界に向けて発信することができます。情報処理センターは、旭川医大キャンパス情報ネットワーク(AMEC-Net)を構成する4つのサブシステム(医学・看護研究支援システム、情報処理教育支援システム、学術情報支援サブシステム及び管理運用サブシステム)からなり、学部学生の情報リテラシー教育の場として、また学術情報収集のための電子図書館として、学内の学生・教員の情報処理活動を支援するのみならず、学外へ本学の情報を発信しています。

臨床シミュレーションセンター

臨床シミュレーションセンターは、実践的な臨床医学教育訓練の場として、次のような成果を挙げることを目的としています。

- 1 臨床前医学教育における医学入門実習及び臨床実習における基本的臨床能力の習得(学部学生)
- 2 卒後臨床研修における一般臨床技能の習得(研修医)
- 3 生涯教育として高度臨床技能の習得(医師、看護師、コメディカル)
- 4 新たな教材の開発

[利用状況(令和6年度)]

区分	利用時間数	利用人数
コンピュータ・アシストラボラトリー	657	2,098
感覚器診断スキルズ・ラボラトリー	248	905
基本的臨床スキルズ・ラボラトリー	734	1,347
心肺機能・救命救急スキルズ・ラボラトリー	946	1,998
手洗い練習室	442	905
教材作成室	150	370

復職・子育て・介護支援センター(二輪草センター)

育児中でも働きやすい環境

仕事と家庭の両立を助け働きやすい職場環境を整えることを目的とした施設です。「復職支援研修部門」、「キャリア支援部門」、「子育て・介護支援部門」、「病児・病後児保育部門」の4部門で組織され、それぞれの教育プログラムや各種セミナー、講演会なども開催しています。



病児・病後児保育室「のんの」

社会連携

公開講座実施状況

講座名	実施時期	講座の概要	実施回数
旭川医科大学公開講座	令和6年9月～令和6年10月	旭川市内において、一般市民を対象に実施	5
旭川医科大学生涯教育講座	令和6年7月～令和6年12月	旭川医科大学において、学内および旭川市近郊の看護師等を対象に実施	11

※一部オンライン開催も含む。

派遣講座分野別実施件数

令和6年度実績

分野	件数	分野	件数
思春期	14	高齢者看護	2
公衆衛生看護	9	骨・関節の病気	2
精神看護	9	妊娠・母乳育児	2
救急医学	4	皮膚の病気	2
災害対策	4	乱用薬物	2
からだのしくみ	3	血管の病気	1
高血圧	3	高齢者と健康	1
リハビリ	3	消化器の病気	1
眼の病気	3	地域高齢者教育	1
教育	3	脳科学	1
脳・神経の病気	3	薬剤	1
高齢者	2	遺伝	1
法医学	2	集中ケア	1
歴史	2	循環器の病気	1
口・顎の病気	2	摂食嚥下障害	1
合計			86

※高校生メディカル講座は含まない。

※一部オンライン開催も含む。

派遣講座実施状況

令和6年度実績

区分	件数
旭川市	38
旭川市以外の市町村	21
小計	59
上川総合振興局以外の市町村	27
合計	86

※高校生メディカル講座は含まない。

※一部オンライン開催も含む。

地域医療を支える 人づくりプロジェクト事業

令和6年度実績

講座	実施校数
高校生メディカル講座	8

※本学教員が北海道内の高校に講師として出向く出張講座。

講座	開催日	参加者数
メディカル・キャンプ・セミナー	令和6年8月5日・6日	80

※医学部進学を目指す高校2年生対象の講演等。

近年の国内各自治体等との 協定締結一覧

締結先	協定内容	締結年月
北海道国立大学	単位互換協定	2014年 2月
北海道国立大学	学部・大学院入学前 留学生教育の実施に 関する協定	2014年 2月
富良野市及び富良野協会病院	連携協力協定	2014年 3月
深川市立病院	連携協定	2015年 4月
遠軽厚生病院及び遠軽町	連携協定	2016年 1月
旭川市	包括連携協定	2014年 6月
一般社団法人東京オリンピック・ パラリンピック 競技大会組織委員会	連携協定	2014年 6月
市立旭川病院	基本協定	2016年 12月
芦別市	連携協定	2018年 2月

ウクライナ医師臨床研修

開催期間	参加者数
令和6年 4月8日～5月2日	1

高大病連携による「ふるさと医療人」育成

内容	開催日	参加校数 (参加者数)
第15回 高校生による医療体験活動報告会 第14回 高校生による地域医療討論会	令和7年3月20日	14 (131)



外国人留学生

令和7年5月1日現在

国名	大学院		計
	国費	私費	
中華人民共和国	1 (1)	4 (3)	5 (4)
計	1 (1)	4 (3)	5 (4)

※()内の数字は、内数で女子を示す。

外国人研究者等受入状況

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入数	1	4	5

学術交流協定締結機関

令和7年5月1日現在

締結機関名	中国医科大学	締結機関名	モンゴル国立医科大学
国名	中華人民共和国 (遼寧省)	国名	モンゴル国 (ウランバートル市)
締結期間	2005年9月13日 - 2025年9月12日	締結期間	2012年7月23日 - 2027年11月15日
締結機関名	マヒドン大学熱帯医学部	締結機関名	ポメラニアン医科大学
国名	タイ王国 (バンコク市)	国名	ポーランド共和国 (シュチェチン市)
締結期間	2008年3月31日 - 2028年3月21日	締結期間	2018年11月28日 - 2029年6月9日
締結機関名	ウダヤナ大学	締結機関名	リオグランデスール連邦大学
国名	インドネシア共和国 (バリ島)	国名	ブラジル連邦共和国 (ポルトアレグレ市)
締結期間	2008年4月21日 - 2028年5月14日	締結期間	2021年5月28日 - 2026年5月27日
締結機関名	ハルビン医科大学	締結機関名	ランパーン病院
国名	中華人民共和国 (黒龍江省)	国名	タイ王国 (ランパーン市)
締結期間	2010年5月16日 - 2025年12月17日	締結期間	2024年6月14日 - 2029年6月13日



教育・研究費等

科学研究費助成事業 [令和6年度実績]

研究種目	件数	直接経費	間接経費	経費合計
基盤研究(B)	11	45,600	13,680	59,280
基盤研究(C)	89	75,400	22,620	98,020
挑戦的研究(萌芽)	3	4,400	1,320	5,720
若手研究	38	31,100	9,330	40,430
研究活動スタート支援	4	3,100	930	4,030
国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2	8,500	2,550	11,050
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	3	0	0	0
研究成果公開促進費	1	500	0	500
奨励研究	3	1,410	0	1,410
計	154	170,010	50,430	220,440

※主任研究者分を掲載。

(単位:千円)

外部資金 [令和6年度実績]

種目	件数	金額
寄附金	441	274,038
寄附金(寄附講座)	12	197,000
受託研究費(一般)	85	29,515
受託研究費(治験)	155	80,128
受託事業費(病理組織検査)	5,068	53,096
共同研究費	65	82,527
その他競争的研究費	13	223,816
旭川医科大学基金	84	16,102
計	5,923	956,222

(単位:千円)

その他競争的研究費 [令和6年度実績]

事業名等	件数	直接経費	間接経費	経費合計
AMED 官民による若手研究者発掘支援事業(補助事業)	1	136,729	41,019	177,748
AMED 医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業	1	1,752	526	2,278
AMED 次世代がん医療加速化研究事業	1	4,500	1,350	5,850
AMED 認知症研究開発事業	1	8,000	2,400	10,400
AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	1	1,500	450	1,950
厚生労働省科学研究費補助金	1	1,020	1,380	2,400
科学技術振興機構 CREST	1	2,100	630	2,730
科学技術振興機構 プログラムマネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム	1	1,000	300	1,300
科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)	1	2,000	600	2,600
科学技術振興機構 大学発新産業創出基金事業(基金)	1	7,950	2,385	10,335
科学技術振興機構 研究成果展開事業	1	750	225	975
日本学術振興会 二国間交流事業	1	2,000	0	2,000
経済産業省 成長型中小企業等研究開発支援事業	1	2,500	750	3,250
計	13	171,801	52,015	223,816

※主任研究者分を掲載。

(単位:千円)

令和7年度予算

収入		支出	
区分	金額	区分	金額
運営費交付金	4,908	業務費	31,482
施設整備費補助金	25	教育研究経費	4,899
補助金等収入	107	診療経費	26,583
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	0	施設整備費	216
自己収入	27,308	補助金等	107
授業料及び入学検定料収入	570	産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	970
附属病院収入	26,467	長期借入金償還金	1,071
雑収入	271	計	33,846
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	970		
長期借入金収入	191		
目的積立金取崩	337		
計	33,846		

(単位:百万円)

※百万円未満切捨てにより表示。

土地・建物配置図

土地・建物

令和7年5月1日現在

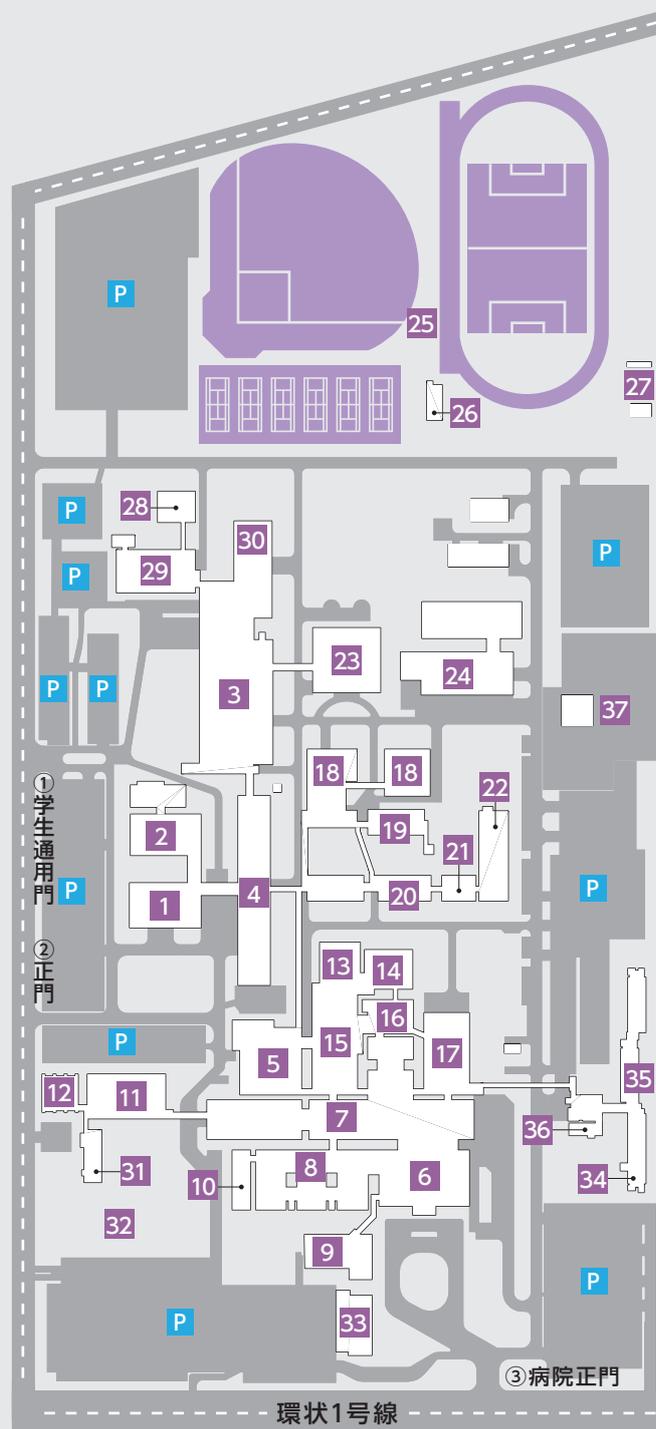
S:鉄骨コンクリート R:鉄筋コンクリート SR:鉄骨鉄筋コンクリート W:木造 B:ブロック

区分	土地 (m ²)	建築面積 (m ²)	建築延面積 (m ²)	構造・階	主な施設
本部管理棟	● 184,434 ●	1,123	2,142	R2	学長室・事務局長室 他
図書館		1,256	2,735	R2-1	閲覧室 他
講義実習棟		3,027	7,239	SR4	一般教育等教員室 他
総合研究棟		1,782	13,997	SR8	専門教育教員室 他
臨床講義棟		1,490	1,590	R1-1	講義室
病院		11,964	59,628	SR11-1	外来診療棟・病棟 他
医療情報棟		295	885	R3	遠隔医療情報室 他
共通棟(A)		1,047	1,047	S1	卒後臨床研修センター 他
共通棟(B)		374	1,078	S3	専門教育教員室 他
動物実験施設A.K		1,995	4,324	R3	SPF動物飼育室 他
RI研究施設		453	948	R2	照射室・RI貯蔵室 他
実験実習機器センター1.2		982	3,652	R3.R5	電子顕微鏡室 他
臨床研究棟		260	1,318	R5	専門教育教員室 他
共用研究棟		1,500	1,500	S2	研究室 他
看護学科棟		1,051	6,477	SR6	大講義室 他
中央機械室		2,902	3,055	R2	電気室・ボイラー室 他
屋外運動場					陸上競技場・野球場 他
体育管理施設		160	160	R1	ミーティングルーム 他
弓道場		78	78	W1	
武道場		424	424	R1	柔道場 他
体育館		1,082	1,082	S1	競技場・ロッカー室 他
福利施設		1,390	2,331	R2	食堂・保健管理センター 他
共通棟(C)		294	294	S1	研修室 他
一般管理施設	468	468	R1	廃棄物処理施設・危険物保管庫 他	
物品庫	90	90	B1		
緑が丘テラス	599	599	S2	薬局・会議室 他	
看護師宿舎	9,353	1,422	5,709	R5	
病院トリアージ施設		213	213	S1	
ドクターヘリポート	6,711				
駐車場	31,330				
小計	231,828	37,721	123,063		
職員宿舎	15,939	1,808	9,107	R5	大学構外
計	247,767	39,529	132,170		

※保育園は令和6年3月31日をもって閉園しました。

建物配置図

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 本部管理棟 | 21 臨床研究棟 |
| 2 図書館 | 22 共用研究棟 |
| 3 講義実習棟 | 23 看護学科棟 |
| 4 総合研究棟 | 24 中央機械室 |
| 5 臨床講義棟 | 25 屋外運動場 |
| 6 玄関棟 | 26 体育管理施設 |
| 7 病棟 | 27 弓道場 |
| 8 外来診療棟 | 28 武道場 |
| 9 食堂棟 | 29 体育館 |
| 10 医療情報棟 | 30 福利施設 |
| 11 共通棟 (A) | 31 共通棟 (C) |
| 12 共通棟 (B) | 32 大学の森 |
| 13 MRI-CT装置棟 | 33 緑が丘テラス |
| 14 高エネルギー施設 | 34 ファミリーハウス |
| 15 中央診療棟A | 35 看護師宿舎 |
| 16 特殊診療棟 | 36 病院トリアージ施設 |
| 17 中央診療棟B | 37 ドクターヘリ ヘリポート |
| 18 動物実験施設 | |
| 19 RI研究施設 | |
| 20 実験実習機器センター | |





機関別認証評価認定マーク

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受け、令和4年3月24日付けで「大学評価基準を満たしている」との認定を受けました。



医学教育分野別評価認定マーク

医学部医学科は、令和元年度に一般社団法人日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審し、本学の医学教育が国際基準に準拠していると認定されました。



看護学教育評価認定マーク

看護学科は令和4年度に看護学教育評価を受審し、日本看護学教育評価機構(JABNE)が定める「日本看護学教育評価基準」に「適合」していると認定されました。



くるみんマーク

平成27年6月25日付けで北海道労働局長から次世代育成支援対策推進法第13条に基づく「基準適合一般事業主」(子育てサポート企業)に認定され、次世代認定マーク「くるみんマーク」を取得しました。



多様な働き方推進事業者認定マーク

令和6年11月26日付けで旭川市長から多様な働き方推進事業者認定・表彰制度に基づく「多様な働き方推進事業者」にゴールド認定されました。



旭川医科大学学章

雪の結晶により北海道を、旭川市民の木「ナナカマド」により旭川をイメージすることができ、その中央の医大の文字により、北海道の中央にある「旭川医科大学」をイメージしています。



旭川医科大学ブランドマーク

イニシャルの「A」をストライプで図案化。右上がりに跳ねる様は、豊かな自然の旭川から医療人及び研究者を育成し、地域に根ざした医療及び福祉のさらなる向上(発信)を表現。紫は、ラベンダーの景観や医療の英知・国際貢献、緑は再生や生命の輝きを意味しています。



〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1-1-1
Tel. 0166-65-2111
<https://www.asahikawa-med.ac.jp>

[編集] 旭川医科大学総務課

UD FONT

